

I ICカードの乗車実績データに基づく
敬老パスの利用状況等分析調査報告書

平成 30 年 7 月
名古屋市健康福祉局

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	データ分析上の留意点	2
II	利用状況等の分析	3
1	敬老パスの交付状況	3
(1)	年齢区分別の推移	3
(2)	一部負担金区分別の推移	5
(3)	平成 29 年度の交付状況（平成 30 年 3 月末現在 速報値）	7
2	I C カードの乗車実績データに基づく敬老パスの利用状況	10
(1)	機関別利用回数	10
(2)	市バス・地下鉄区間別利用回数	16
(3)	曜日別利用回数	22
(4)	時間帯別利用回数	26
(5)	利用回数・利用金額の人数分布	29
(6)	居住地域別（郵便番号別）の状況	31
	I C カードの乗車実績データに基づく敬老パスの利用状況まとめ	35

I 調査の概要

1 調査の目的

名古屋市では、市内在住の 65 歳以上の高齢者を対象に、市営交通（市バス・地下鉄）、ガイドウェイバス（ゆとりーとライン 高架・平面区間）、西名古屋港線（あおなみ線）、及びメーグル（なごや観光ルートバス）に無料で乗車できる敬老パスを交付しているが、今後、急速な高齢化が見込まれることから、制度を持続可能なものにするため検討を進めているところである。

本業務は、IC カード化により把握可能となった敬老パス利用者の乗車実績等について、通年でのデータ集積を行ったうえで利用状況の分析を行い、持続可能な敬老パス制度の構築に向けた市としての考え方の方向性を整理するための基礎資料とするものである。

なお、分析業務は平成 29 年度から 30 年度にかけて、名古屋市が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社名古屋に委託した。

2 データ分析上の留意点

本報告書では、敬老パスの交付数と対象者数、及び敬老パス IC カードの乗車実績データを取り扱っている。

(1) 交付者数と対象者数

名古屋市健康福祉局高齢福祉課が所有するデータを用いている。

(2) 敬老パス IC カードの乗車実績データ

<利用回数の計上方法>

(市バス) 市バスを乗車するごとに 1 回として計上
(地下鉄) 市営地下鉄駅(上小田井駅及び上飯田駅を除く。)の改札を出るごとに 1 回として計上

<各図表の内容>

「年間」

・・・平成 29 年 3 月～平成 30 年 2 月の乗車実績を集計

「年間・交付者一人当たり」

・・・平成 29 年 3 月～平成 30 年 2 月の乗車実績を、各月末現在有効な敬老パスの交付数の平均値(335,545 件)で除して算出

「6 か月間・交付者一人当たり」

・・・平成 29 年 3 月末現在有効な敬老パスを所有している人の、平成 29 年 3 月～平成 29 年 8 月の乗車実績を、その人数(330,691 人)で除して算出

<留意点>

今回使用するデータは、市営交通(市バス・地下鉄)の乗車実績のみであり、以下の場合に含まれていない。

- ・ガイドウェイバス(ゆとりーとライン 高架・平面区間)及び西名古屋港線(あおなみ線)で降車した場合
- ・民間鉄道の管理駅(名鉄管理駅(上小田井駅、上飯田駅)含む)で降車した場合
- ・何らかの理由で有人改札を通過した場合

<利用金額について>

利用金額は、利用回数に、市バス及び地下鉄の各区間の料金(乗継割引やマイレージポイントによる割引適用前)を乗じて算出している。

(市バス) 210 円

(地下鉄) 1 区: 200 円 2 区: 240 円 3 区: 270 円 4 区: 300 円 5 区: 330 円

Ⅱ 利用状況等の分析

1 敬老パスの交付状況

交付数と対象者数は、名古屋市健康福祉局高齢福祉課が所有するデータを用いている。なお、ＩＣカード化したことに伴い、平成 28 年度以降は平成 27 年度までとは積算方法が異なっている。また、平成 29 年度は速報値である。

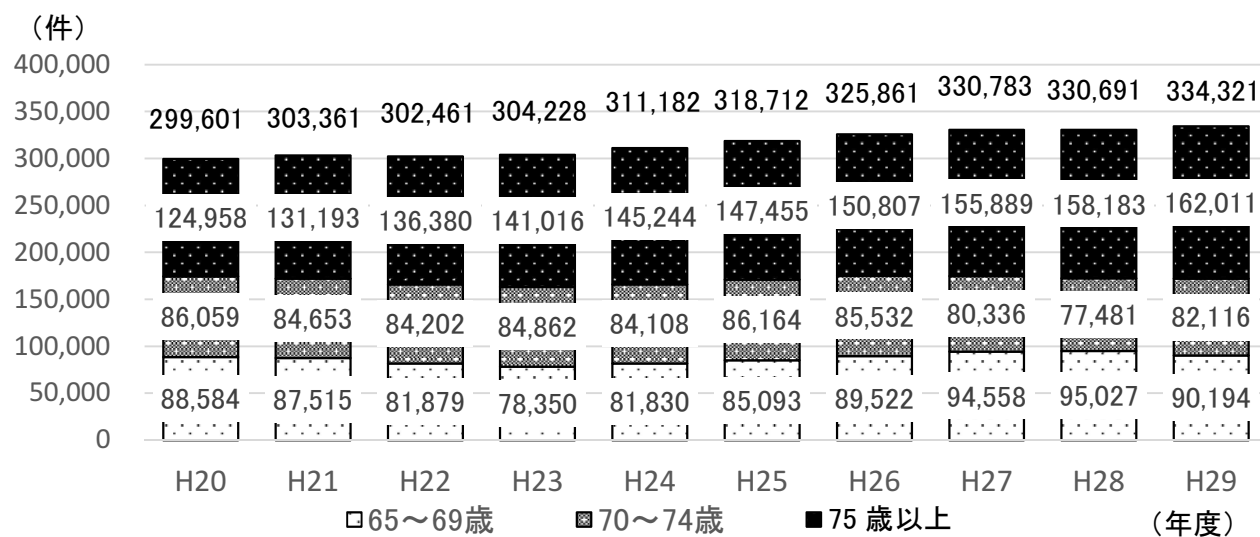
区分	交付数	対象者数
平成 27 年度まで	各年度 9 月から 3 月までの交付数	各年度 9 月 30 日現在の介護保険第 1 号被保険者数
平成 28 年度以降	各年度 3 月 31 日現在有効な敬老パスの交付数	各年度 3 月 31 日現在の介護保険第 1 号被保険者数

(1) 年齢区分別の推移

① 交付数

全体の交付数は増加傾向であり、平成 27 年度には 33 万件を超えている。
75 歳以上の交付数は平成 20 年度以降、継続して増加している。

図表 年齢区分別交付数の推移



(件)

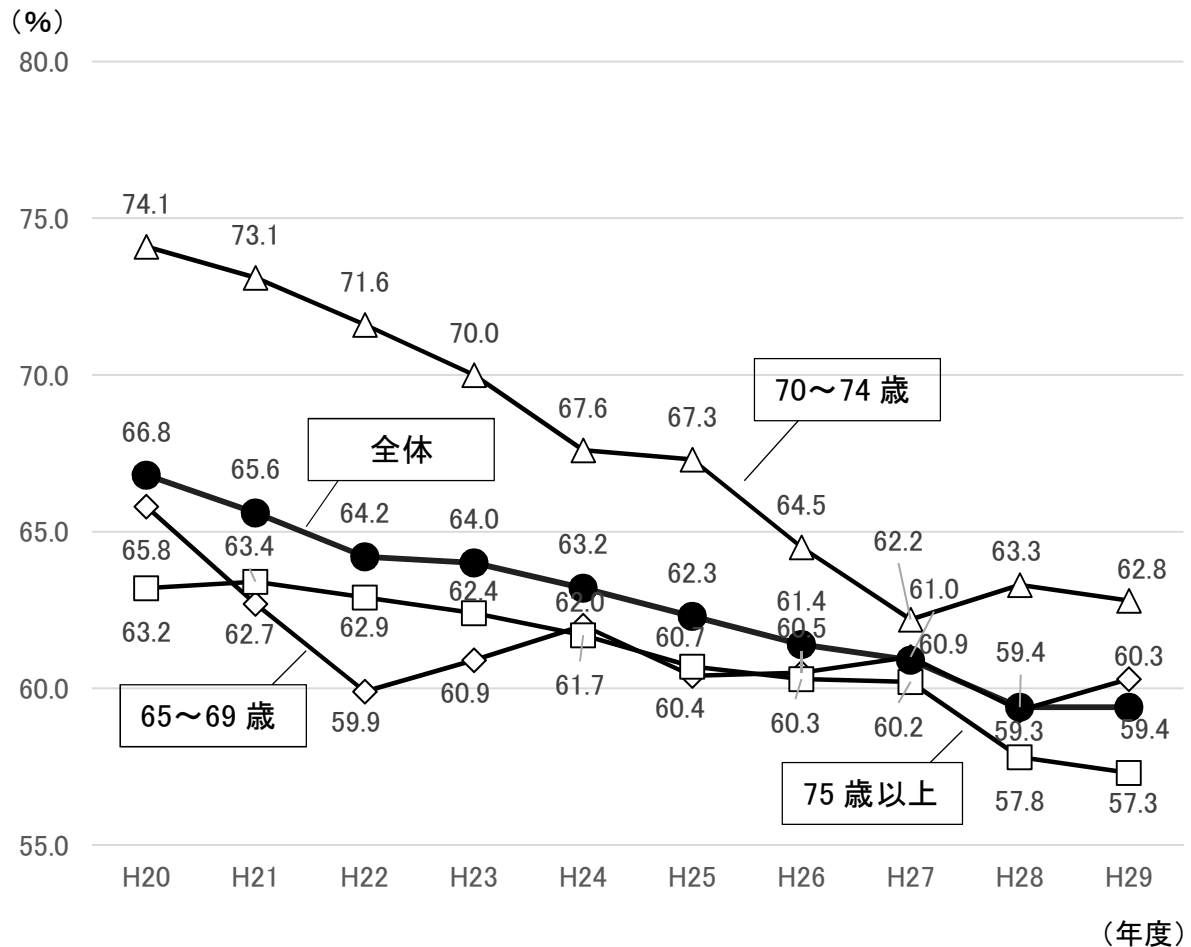
区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (速報値)
75 歳以上	124,958	131,193	136,380	141,016	145,244	147,455	150,807	155,889	158,183	162,011
70～74 歳	86,059	84,653	84,202	84,862	84,108	86,164	85,532	80,336	77,481	82,116
65～69 歳	88,584	87,515	81,879	78,350	81,830	85,093	89,522	94,558	95,027	90,194
計	299,601	303,361	302,461	304,228	311,182	318,712	325,861	330,783	330,691	334,321

※平成 15 年度の交付数（全体） 349,326 件

② 交付率

どの年齢層も減少傾向であり、全体の交付率は平成 28 年度以降は 60%を下回っている。

図表 年齢区分別交付率の推移



(%)

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (速報値)
75歳以上	63.2	63.4	62.9	62.4	61.7	60.7	60.3	60.2	57.8	57.3
70～74歳	74.1	73.1	71.6	70.0	67.6	67.3	64.5	62.2	63.3	62.8
65～69歳	65.8	62.7	59.9	60.9	62.0	60.4	60.5	61.0	59.3	60.3
全体	66.8	65.6	64.2	64.0	63.2	62.3	61.4	60.9	59.4	59.4

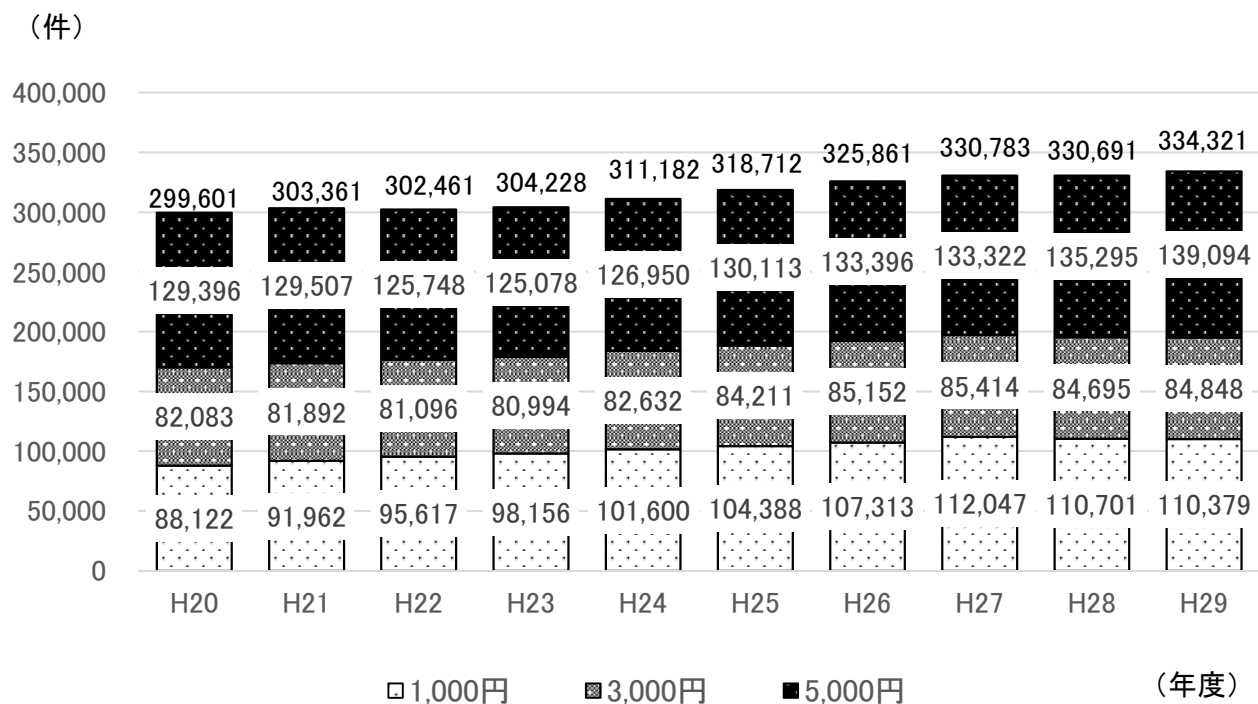
※平成 15 年度の交付率（全体） 91.8%

(2)一部負担金区分別の推移

① 交付数

どの区分も増加傾向である。

図表 一部負担金区分別交付数の推移



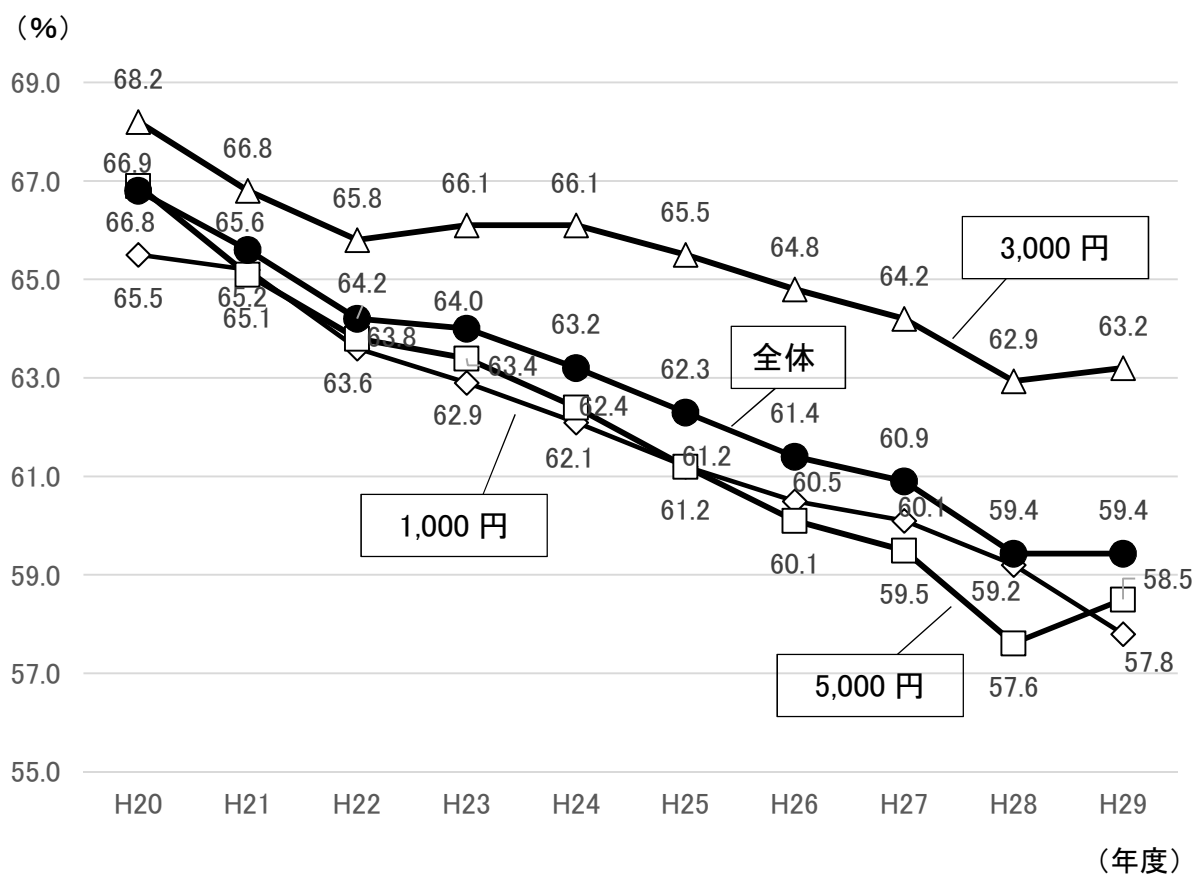
(件)

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (速報値)
5,000 円	129,396	129,507	125,748	125,078	126,950	130,113	133,396	133,322	135,295	139,094
3,000 円	82,083	81,892	81,096	80,994	82,632	84,211	85,152	85,414	84,695	84,848
1,000 円	88,122	91,962	95,617	98,156	101,600	104,388	107,313	112,047	110,701	110,379
計	299,601	303,361	302,461	304,228	311,182	318,712	325,861	330,783	330,691	334,321

② 交付率

どの区分も減少傾向である。

図表 一部負担金区分別交付率の推移



(%)

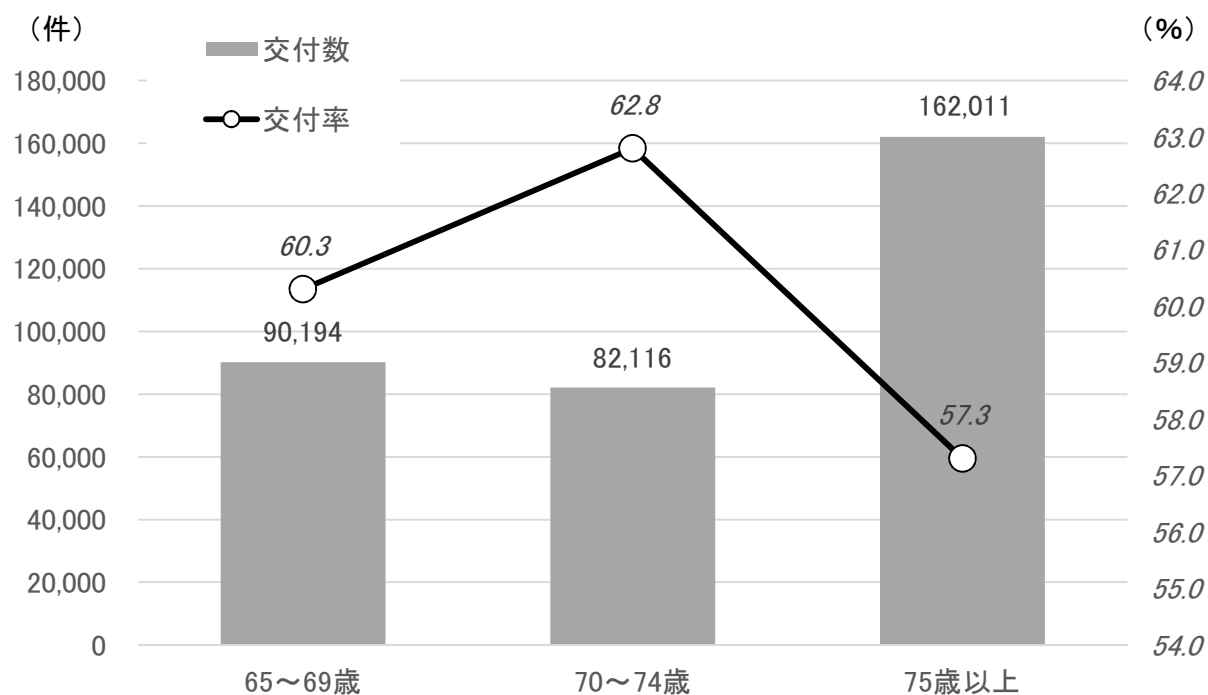
区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (速報値)
5,000 円	66.9	65.1	63.8	63.4	62.4	61.2	60.1	59.5	57.6	58.5
3,000 円	68.2	66.8	65.8	66.1	66.1	65.5	64.8	64.2	62.9	63.2
1,000 円	65.5	65.2	63.6	62.9	62.1	61.2	60.5	60.1	59.2	57.8
全体	66.8	65.6	64.2	64.0	63.2	62.3	61.4	60.9	59.4	59.4

(3)平成 29 年度の交付状況(平成 30 年 3 月末現在 速報値)

① 年齢区分別

交付率は、70～74 歳が 62.8%で最も高い。

図表 年齢区分別交付状況(速報値)

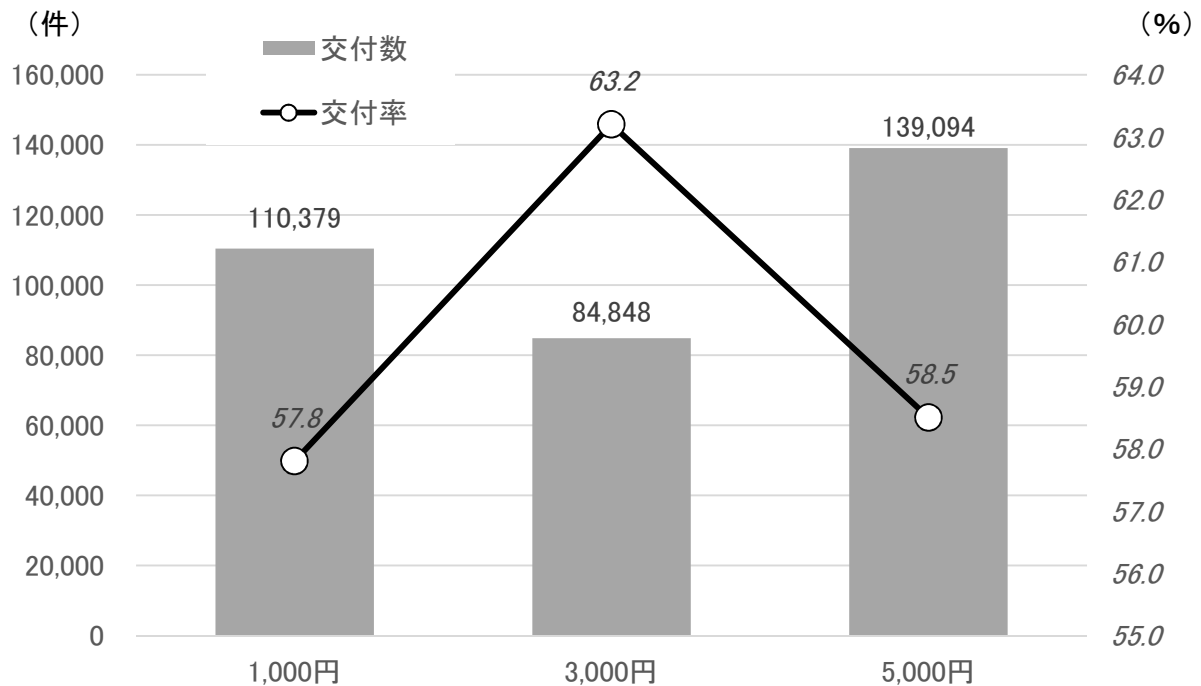


区分	交付数(件)	交付率(%)
65～69 歳	90,194	60.3
70～74 歳	82,116	62.8
75 歳以上	162,011	57.3
全体	334,321	59.4

② 一部負担金区分別

交付数は、5,000 円が約 139 千件で最も多く、次いで 1,000 円、3,000 円である。
 交付率は、3,000 円が 63.2% で最も高い。

図表 一部負担金区分別交付状況(速報値)



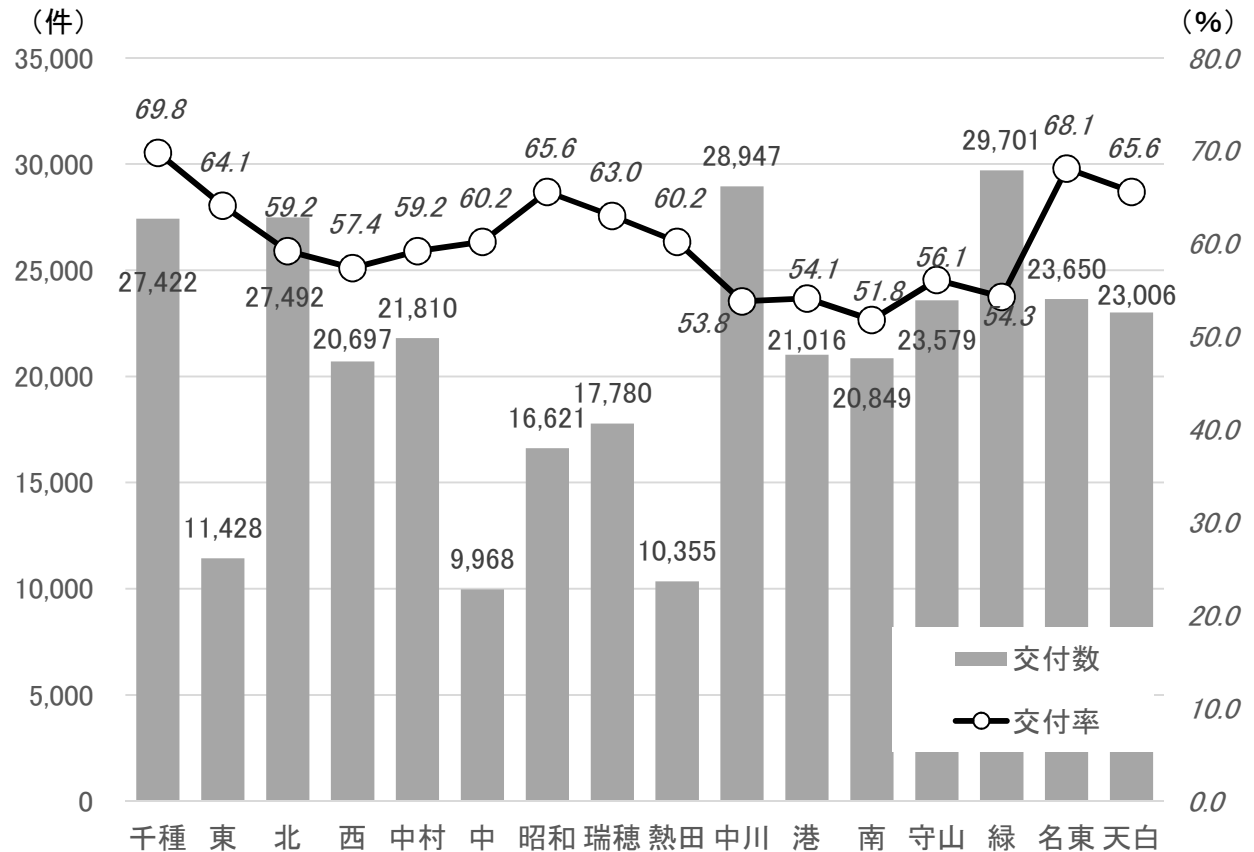
区分	交付数(件)	交付率(%)
1,000 円	110,379	57.8
3,000 円	84,848	63.2
5,000 円	139,094	58.5
全体	334,321	59.4

③ 居住区別

交付数は、緑区が約 30 千件で最も多く、次いで中川区、北区となっている。

交付率は、千種区が 69.8% で最も高く、次いで名東区 (68.1%)、昭和区及び天白区 (65.6%) で高く、南区 (51.8%)、中川区 (53.8%)、港区 (54.1%) で低い。

図表 居住区別交付状況(速報値)



区分	交付数(件)	交付率(%)
千種	27,422	69.8
東	11,428	64.1
北	27,492	59.2
西	20,697	57.4
中村	21,810	59.2
中	9,968	60.2
昭和	16,621	65.6
瑞穂	17,780	63.0
熱田	10,355	60.2
中川	28,947	53.8
港	21,016	54.1
南	20,849	51.8
守山	23,579	56.1
緑	29,701	54.3
名東	23,650	68.1
天白	23,006	65.6
計	334,321	59.4

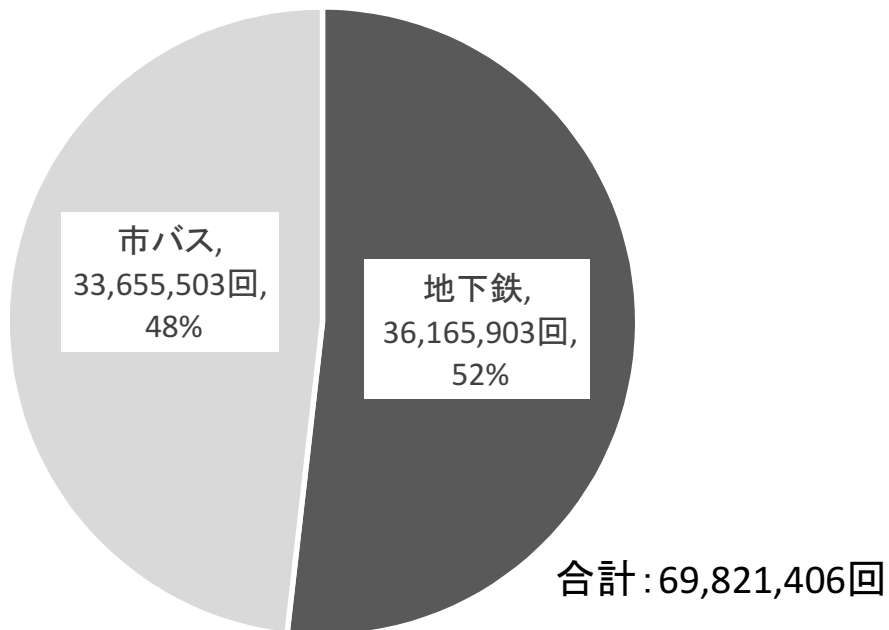
2 ICカードの乗車実績データに基づく敬老パスの利用状況

(1) 機関別利用回数

① 全体

市バスと地下鉄の利用回数はほぼ同等である。

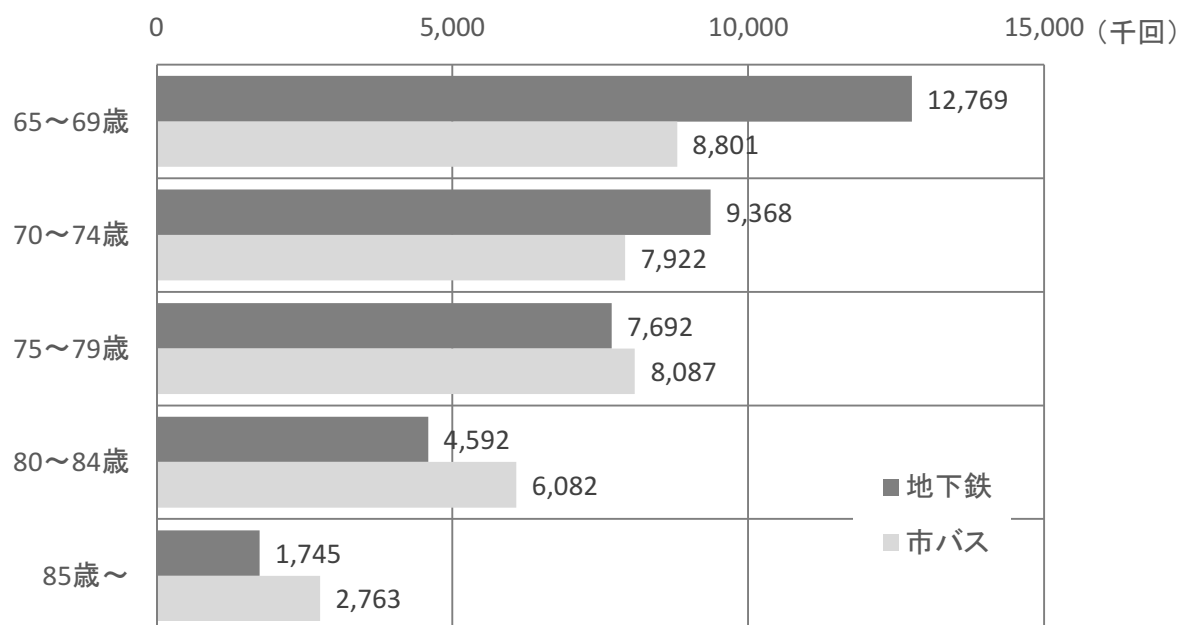
図表 機関別利用回数(年間)



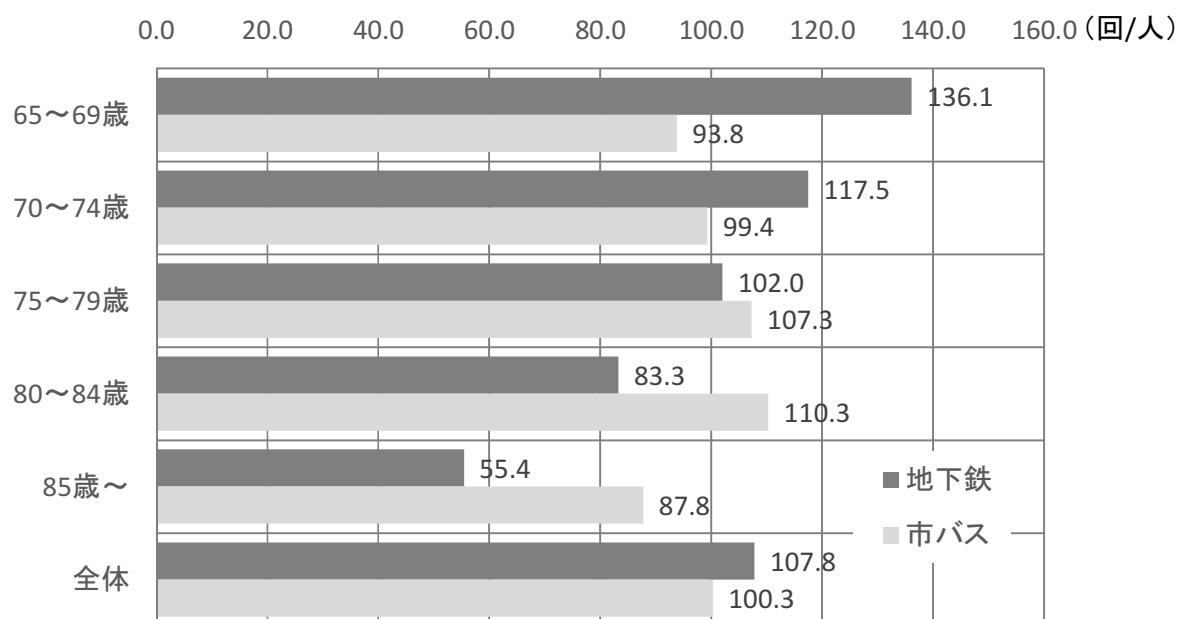
② 年齢区分別

交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は年齢が高くなると少なくなるが、市バスは80～84歳が最も多い。

図表 機関別利用回数【年齢区分別】（年間）

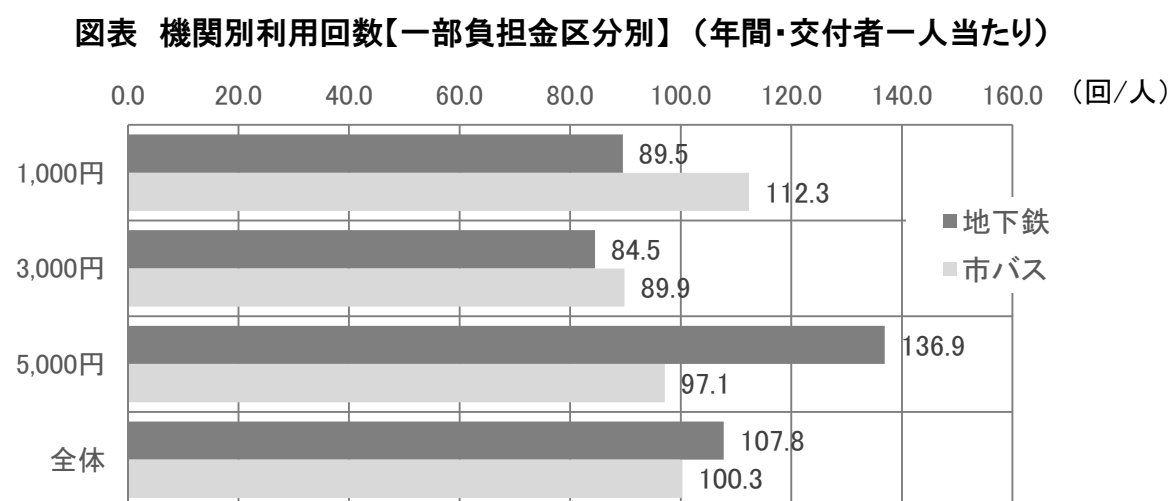
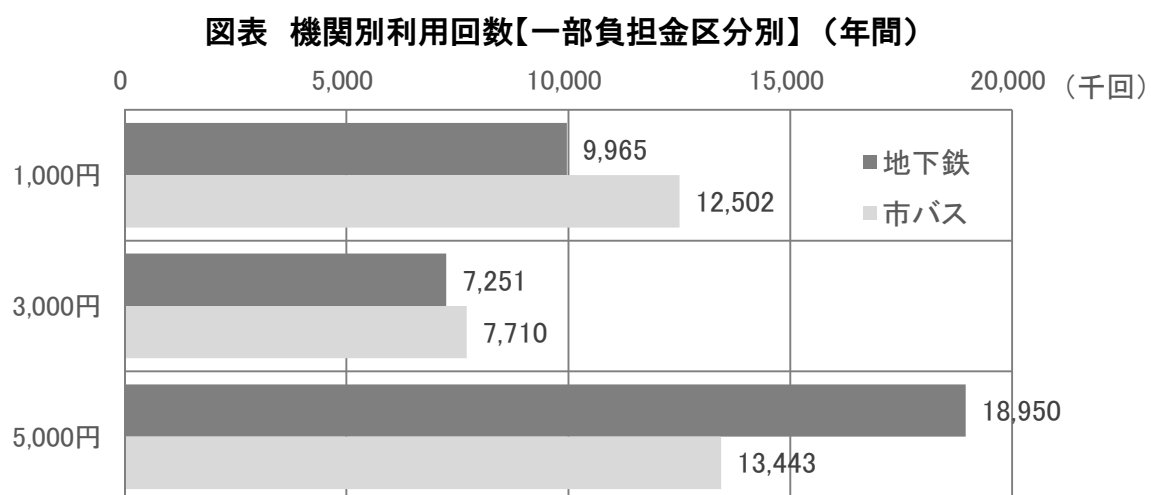


図表 機関別利用回数【年齢区分別】（年間・交付者一人当たり）



③ 一部負担金区分別

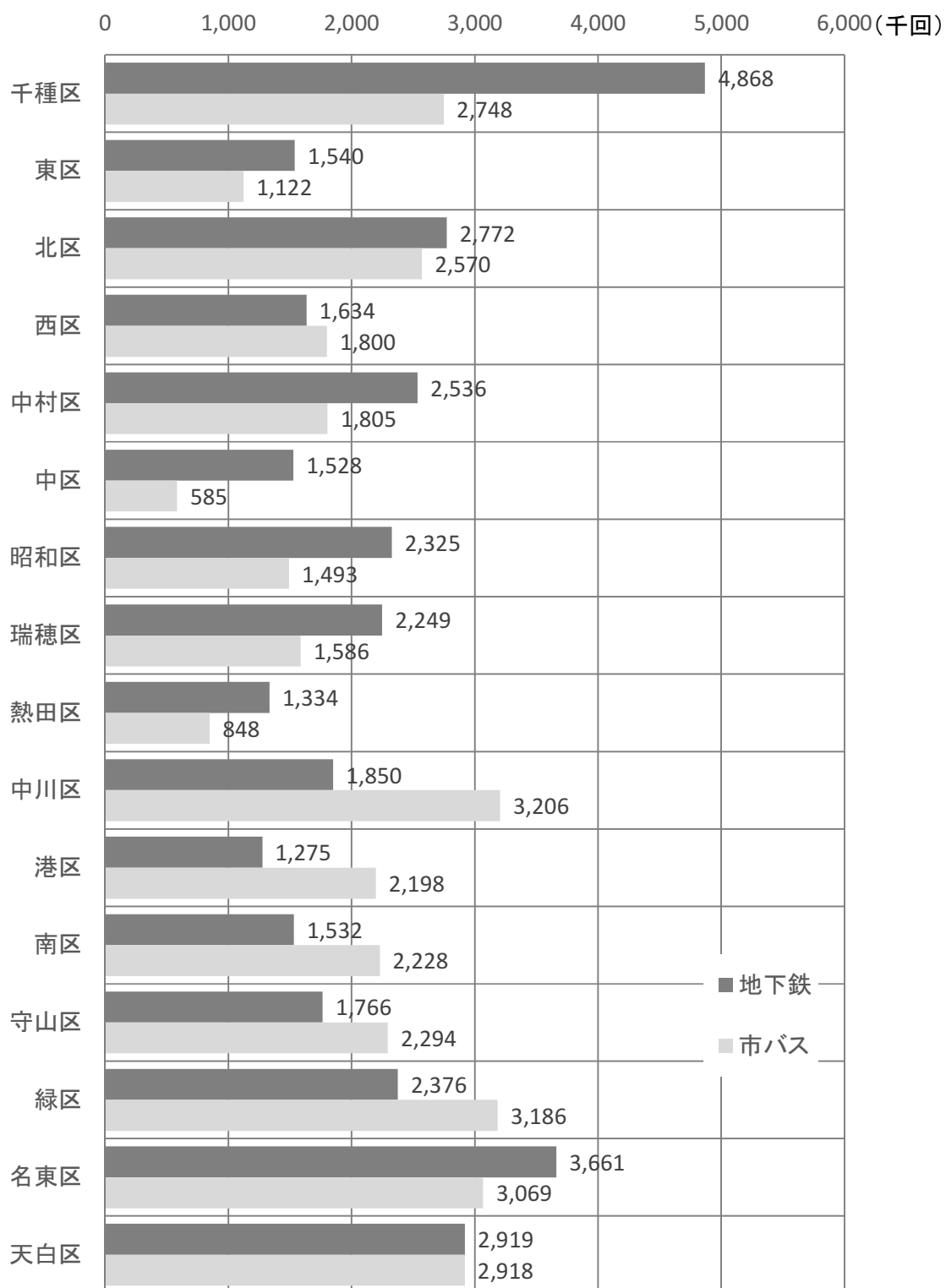
1,000 円は市バスの利用が多く、5,000 円は地下鉄の利用が多い。



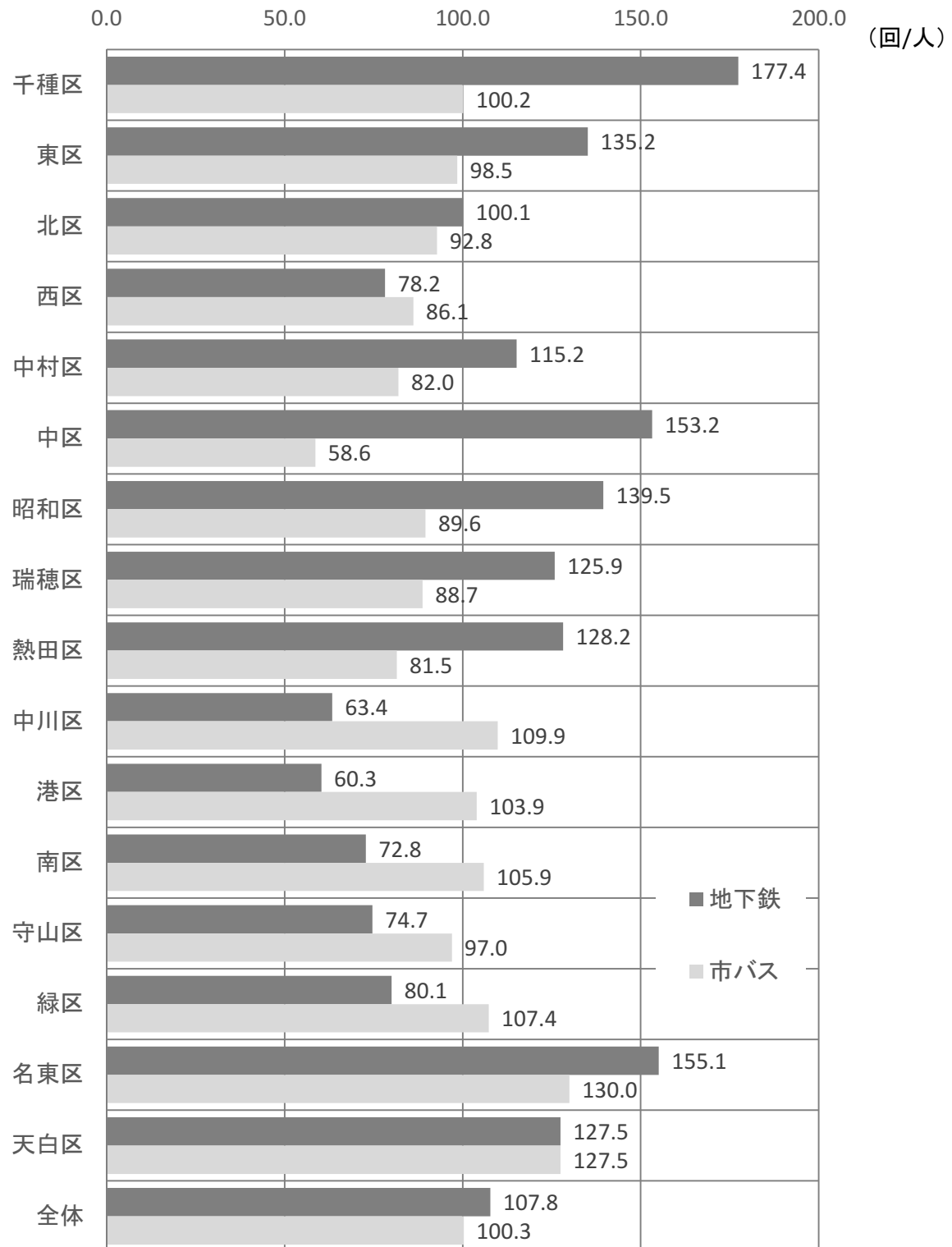
④ 居住区別

交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は千種区、名東区の順で多く、市バスは名東区、天白区の順が多い。また、中川区や港区、南区等では、地下鉄よりも市バスの利用が多い。

図表 機関別利用回数【居住区別】（年間）



図表 機関別利用回数【居住区別】（年間・交付者一人当たり）

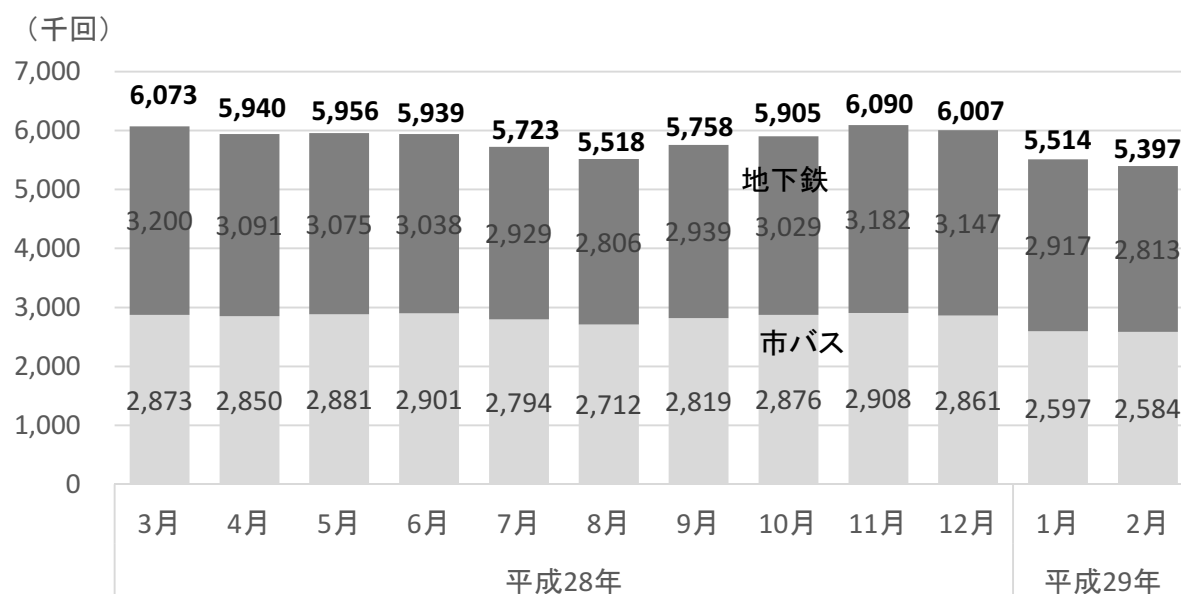


⑤ 月別

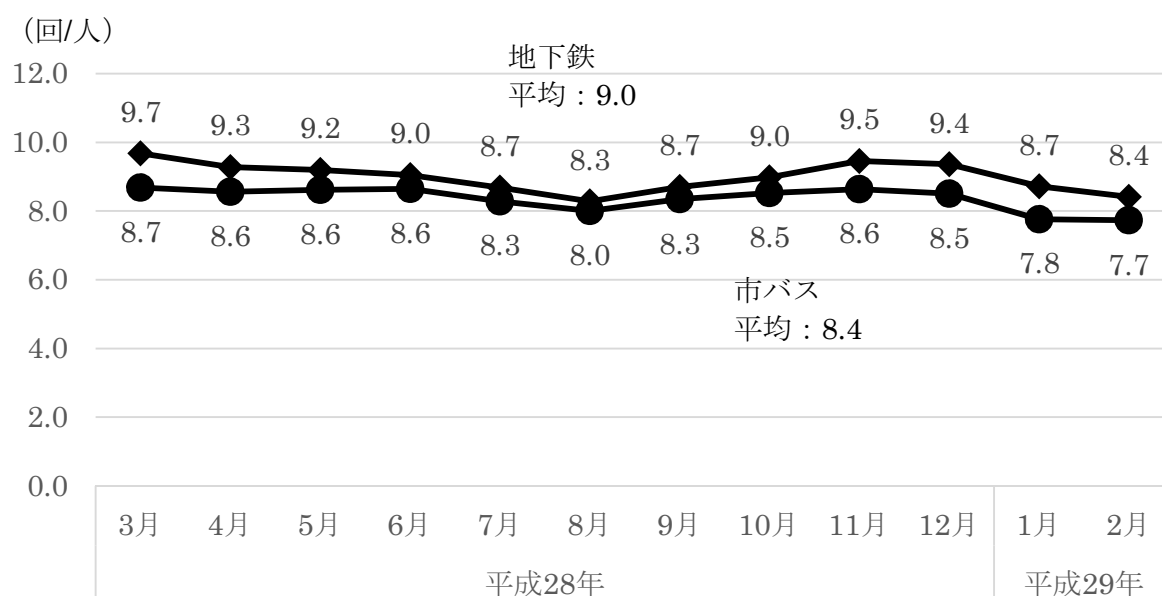
市バスと地下鉄ともに、1月当たり3百万回前後の乗車が見られ、合計で毎月6百万回程度の利用が見られる。

交付者一人当たりの利用回数は、市バスと地下鉄ともに1月当たり8～9回程度である。

図表 機関別利用回数【月別】



図表 機関別利用回数【月別】(交付者一人当たり)



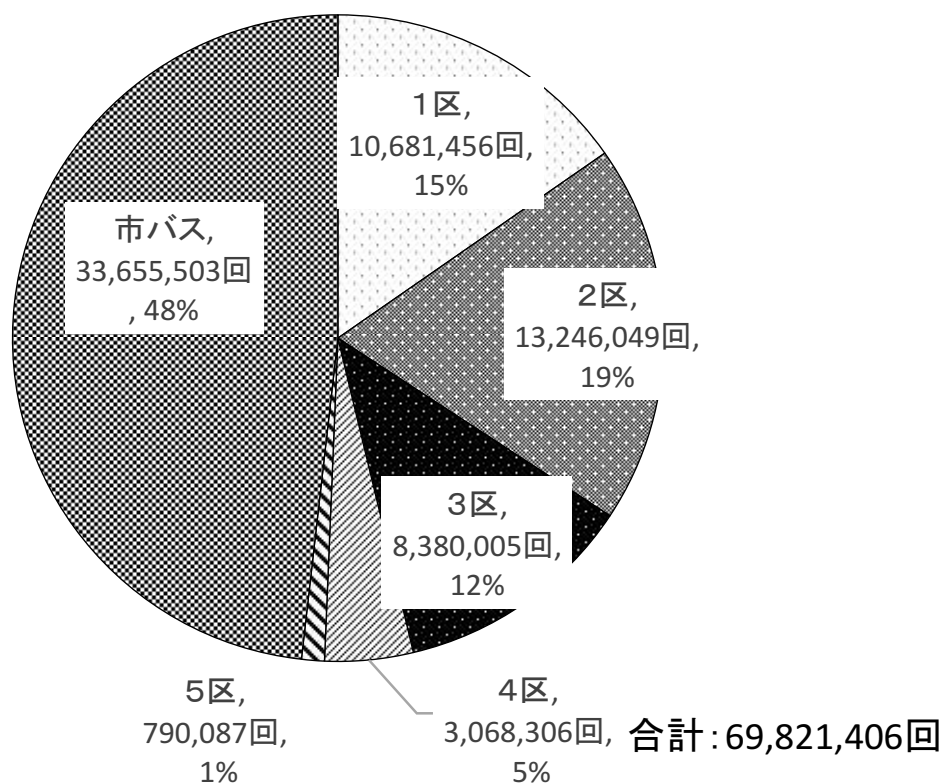
※この集計の「交付者数」は、12ヶ月の平均値ではなく、各月の交付数を採用している。

(2) 市バス・地下鉄区間別利用回数

① 全体

地下鉄の利用回数は「2区」が最も多く、次いで「1区」、「3区」が多い。

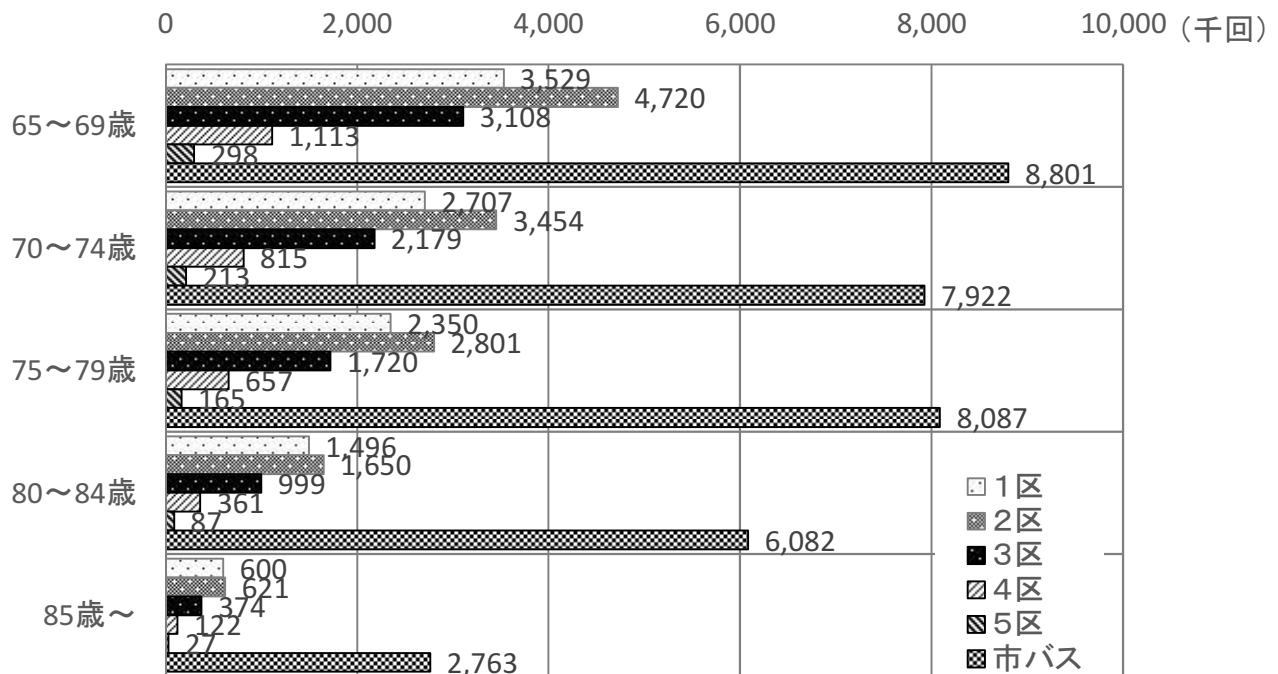
図表 市バス・地下鉄区間別利用回数(年間)



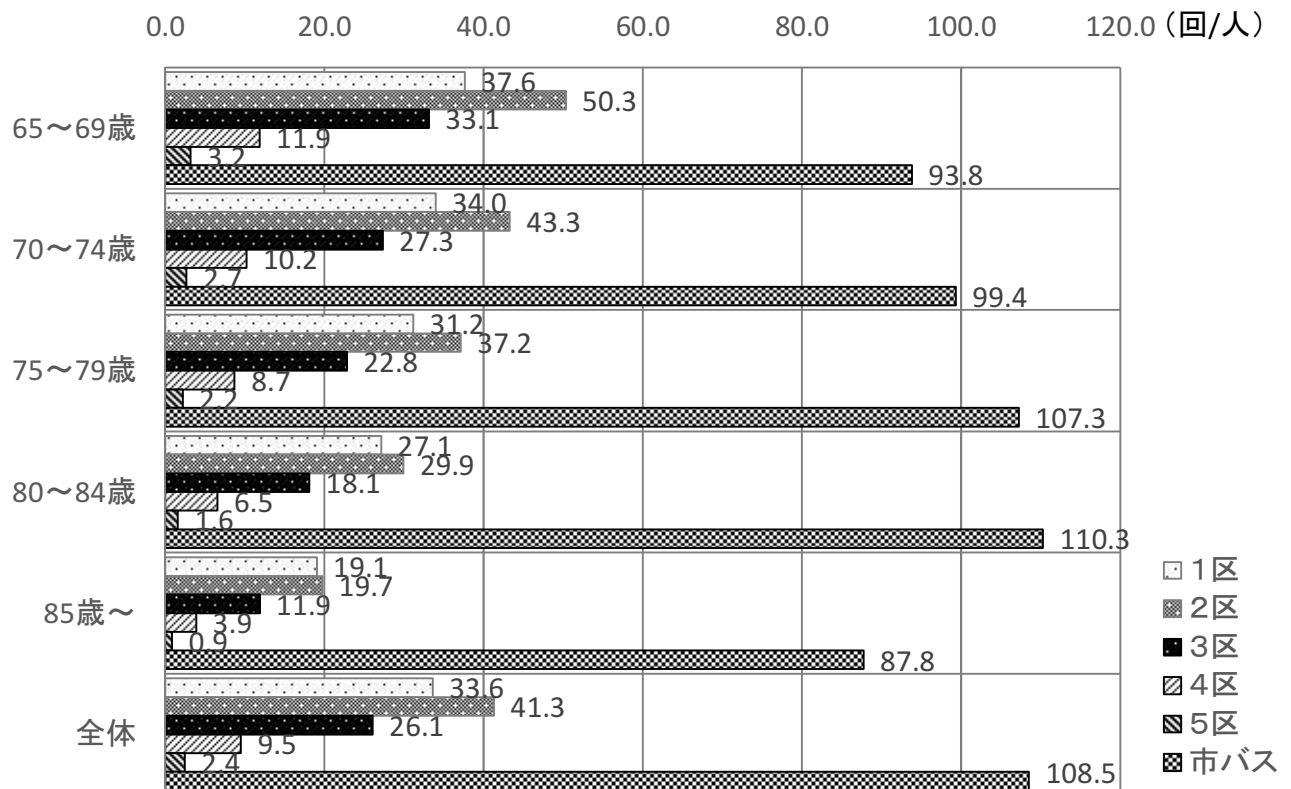
② 年齢区分別

地下鉄の利用回数は、すべての年齢層で「2区」が最も多い。

図表 市バス・地下鉄区間別利用回数【年齢区分別】（年間）



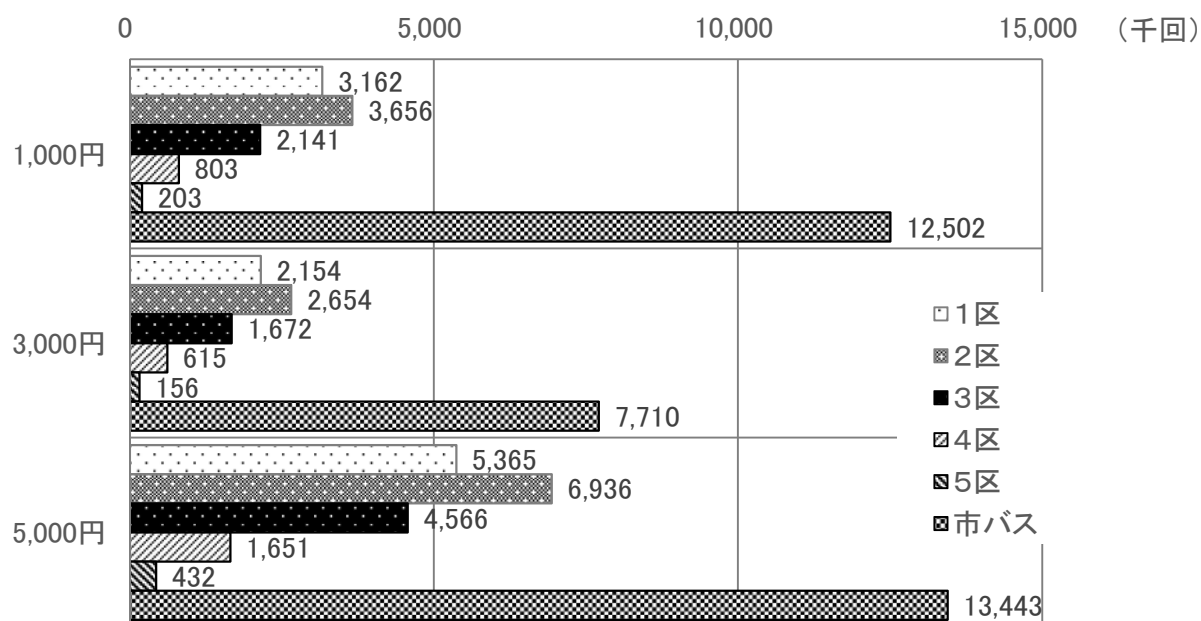
図表 市バス・地下鉄区間別利用回数【年齢区分別】（年間・交付者一人当たり）



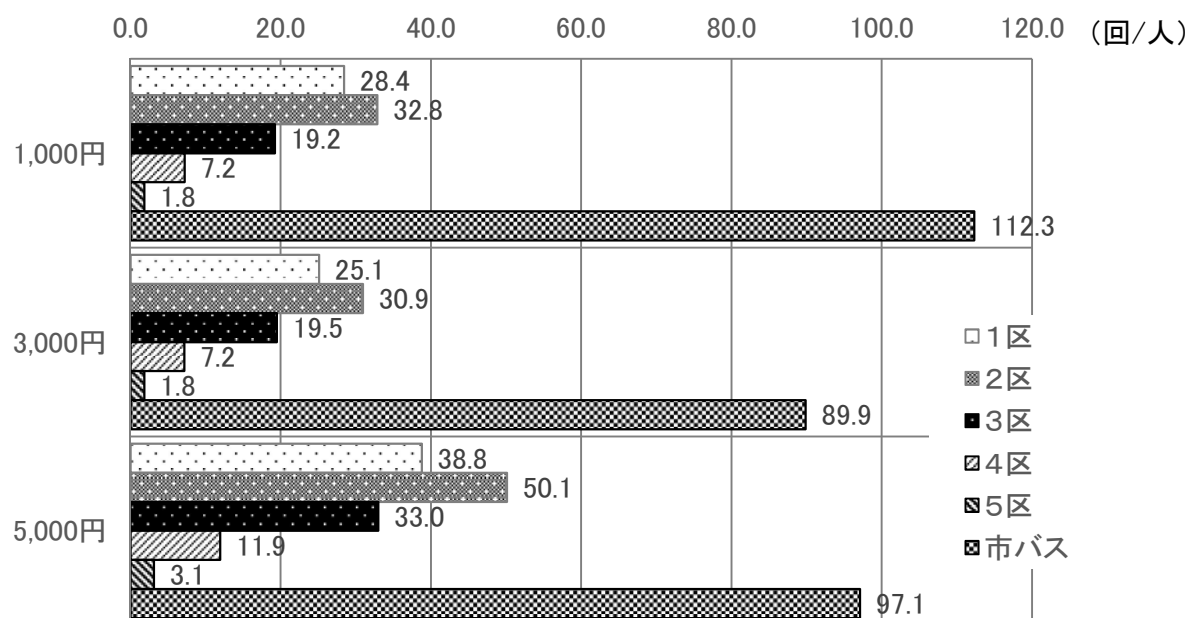
③ 一部負担金区分別

地下鉄の利用回数は、すべての区分で「2区」が最も多い。

図表 市バス・地下鉄区間別利用回数【一部負担金区分別】（年間）



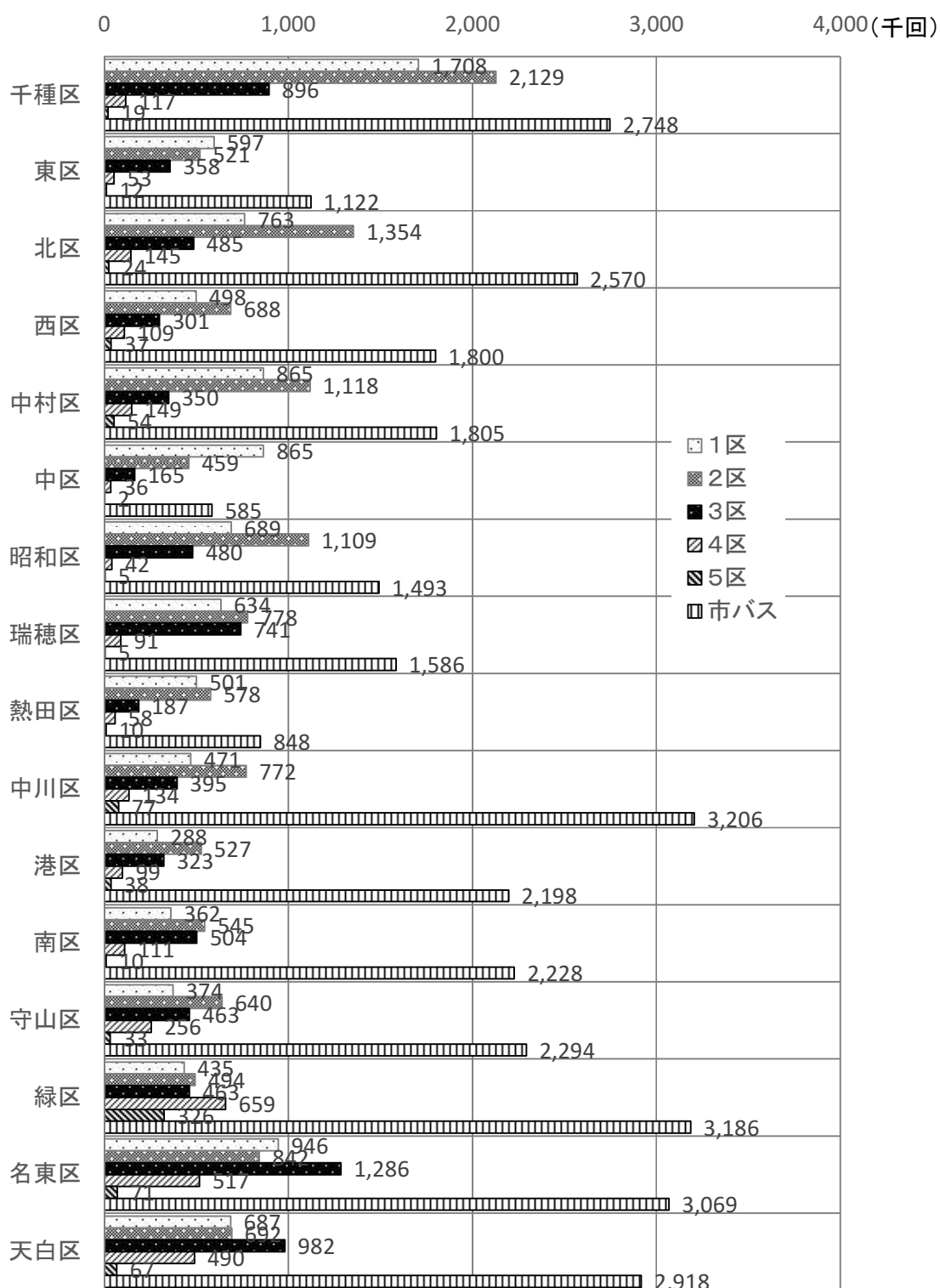
図表 市バス・地下鉄区間別利用回数【一部負担金区分別】（年間・交付者一人当たり）



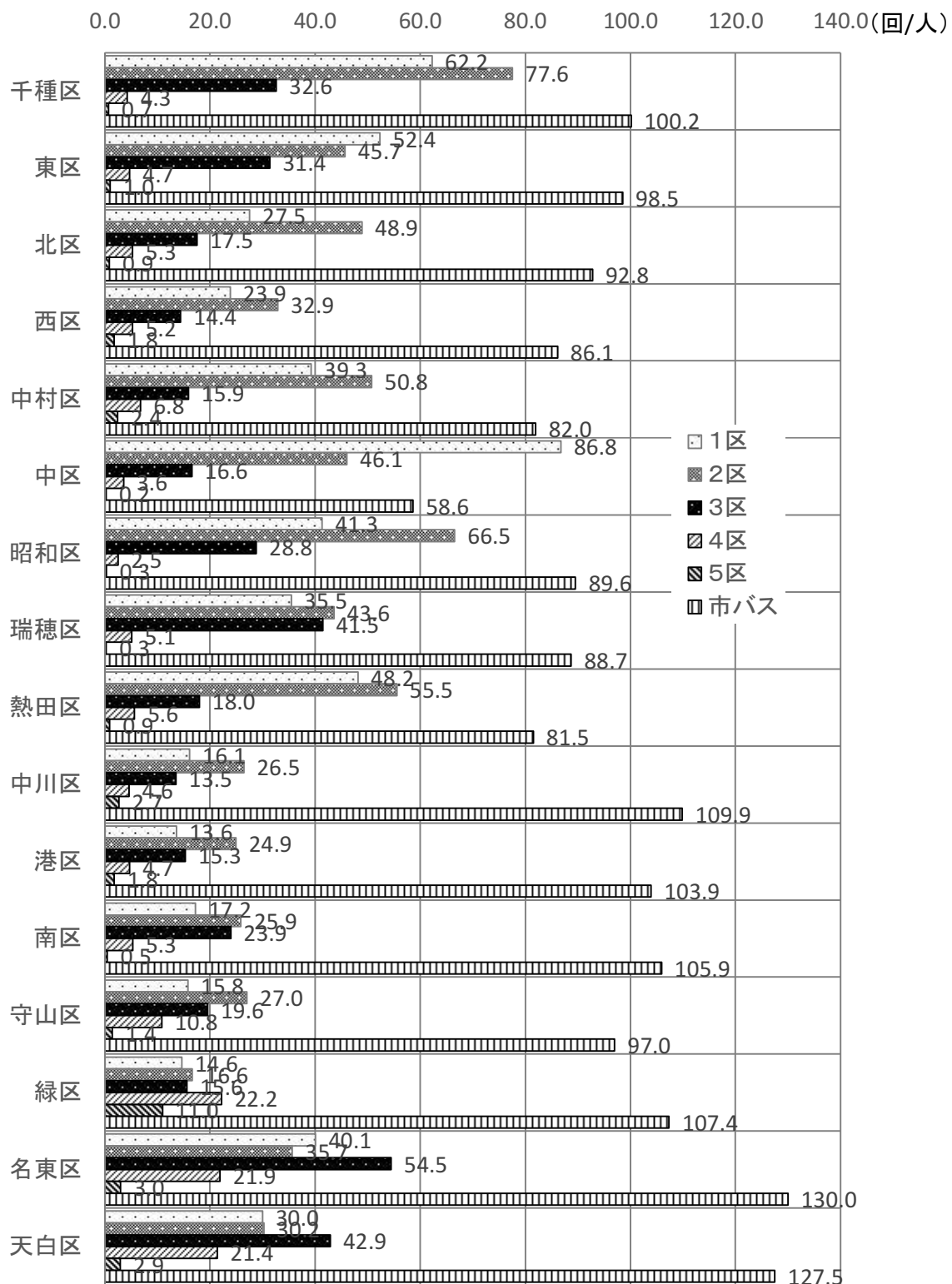
④ 居住区別

地下鉄の利用回数は多くの区で「2区」が最も多いが、東区と中区では「1区」、名東区と天白区では「3区」、緑区では「4区」が多い。

図表 市バス・地下鉄区間別利用回数【居住区別】（年間）



図表 市バス・地下鉄区間別利用回数【居住区別】（年間・交付者一人当たり）

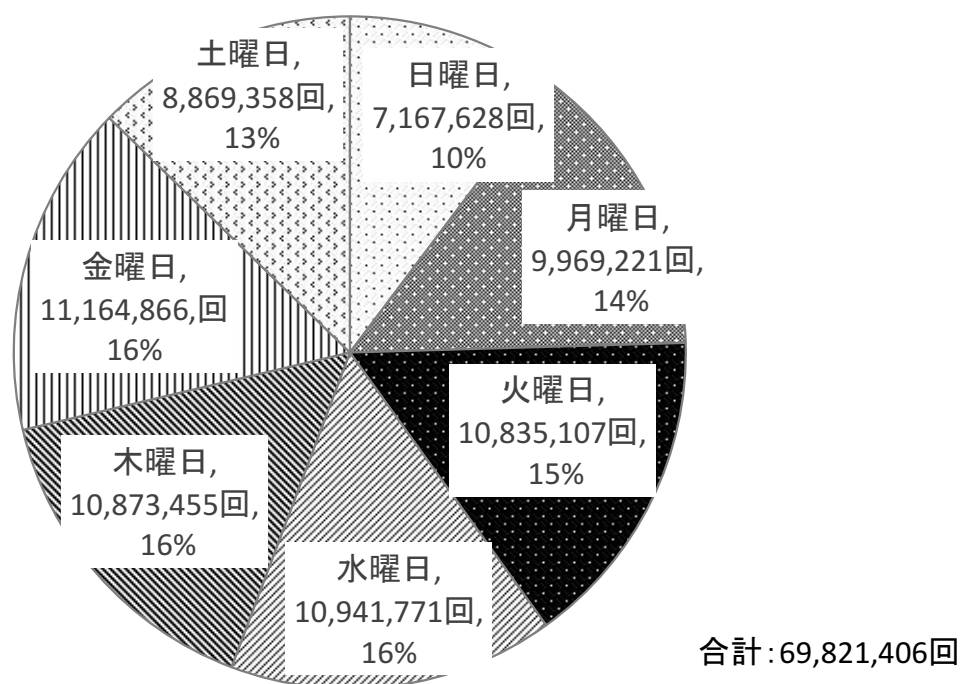


(3) 曜日別利用回数

① 全体

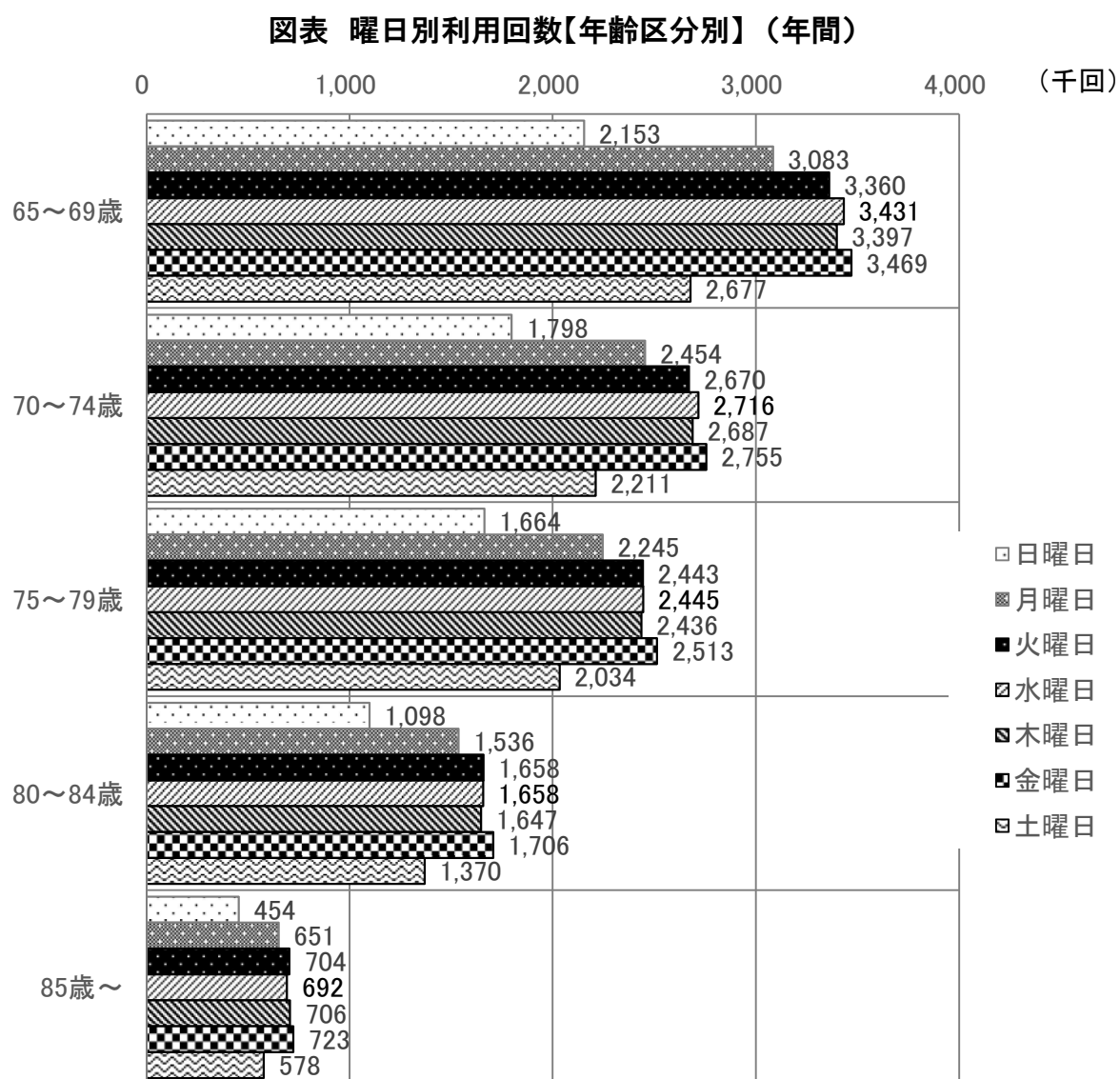
土曜日と日曜日の利用回数は平日よりも少なく、日曜日が最も少ない。

図表 曜日別利用回数(年間)

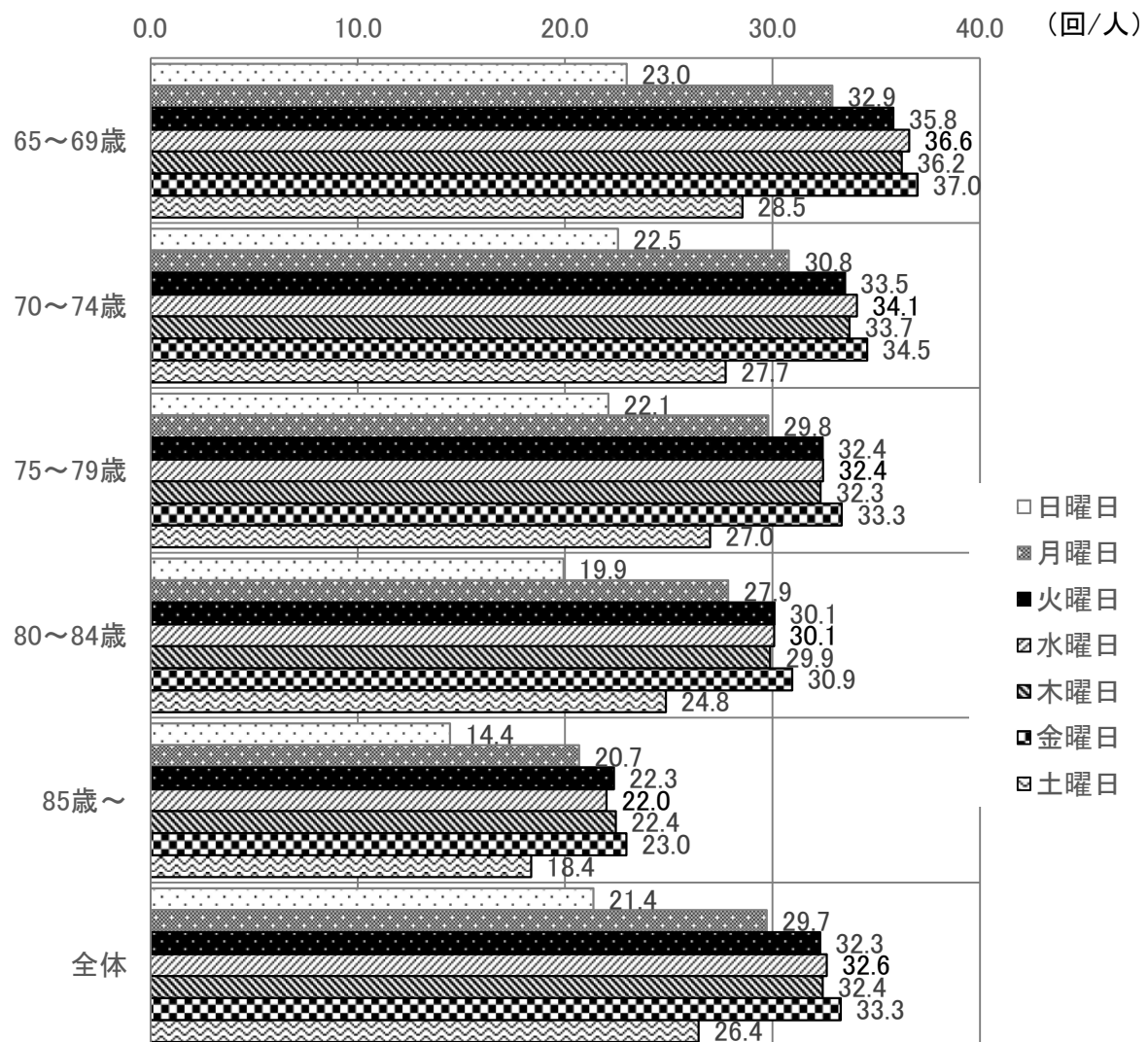


② 年齢区分別

どの年齢層も、土曜日と日曜日の利用回数は平日よりも少なく、日曜日が最も少ない。



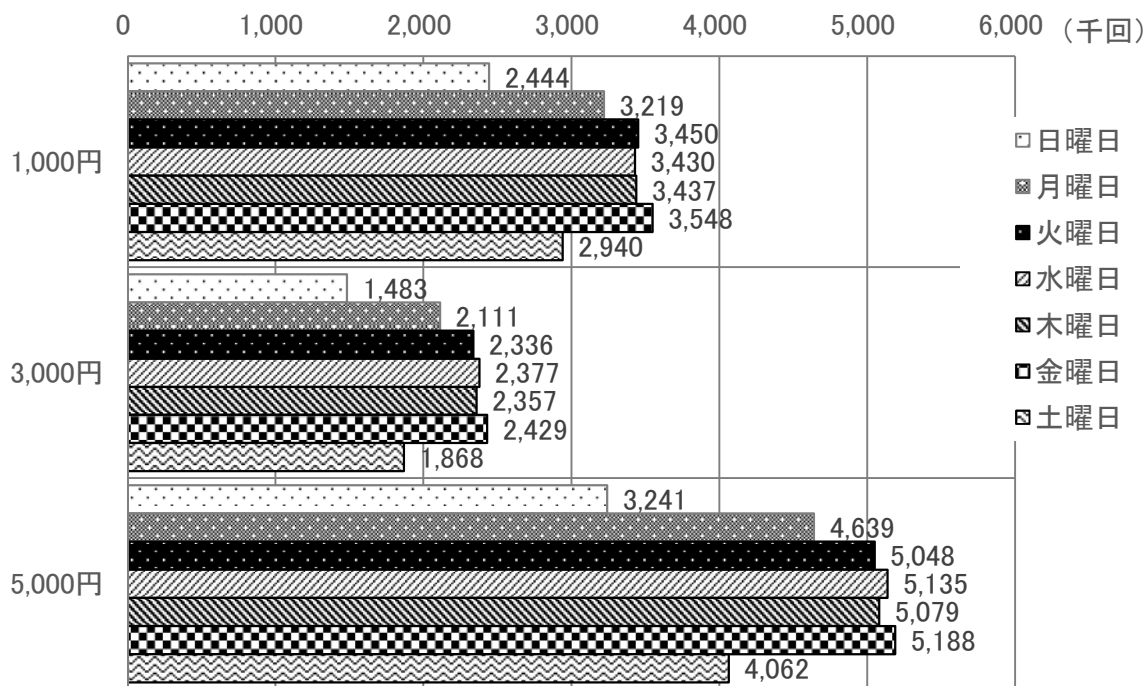
図表 曜日別利用回数【年齢区分別】（年間・交付者一人当たり）



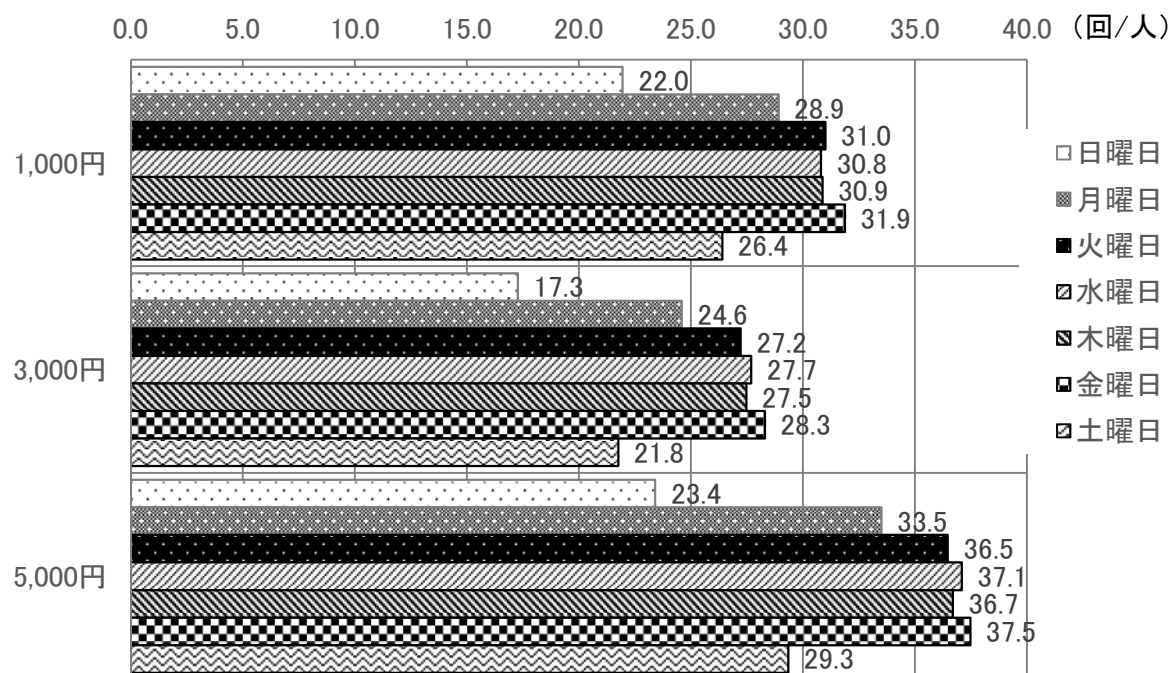
③ 一部負担金区分別

一部負担金区分別では大きな違いは見られない。

図表 曜日別利用回数【一部負担金区分別】（年間）



図表 曜日別利用回数【一部負担金区分別】（年間・交付者一人当たり）

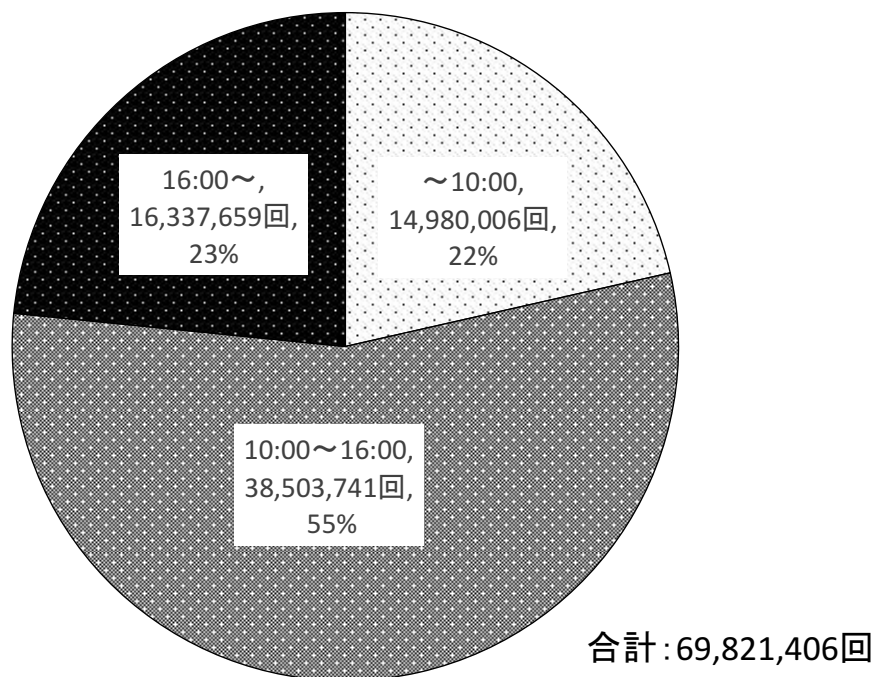


(4) 時間帯別利用回数

① 全体

「10：00～16：00」の利用回数が半数を超えて最も多い。

図表 時間帯別利用回数(年間)

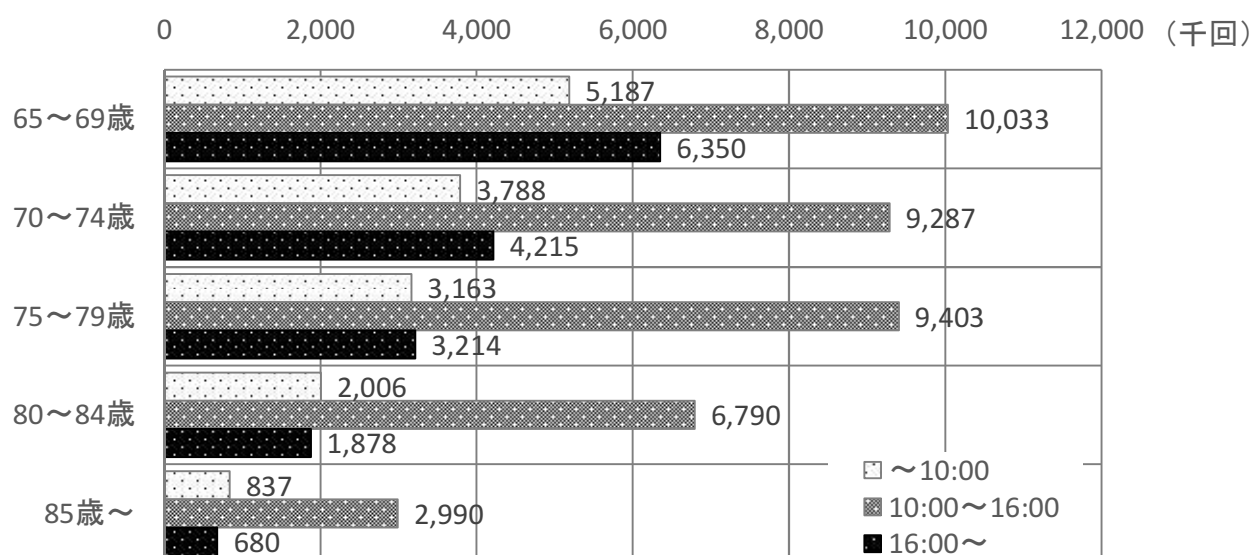


② 年齢区分別

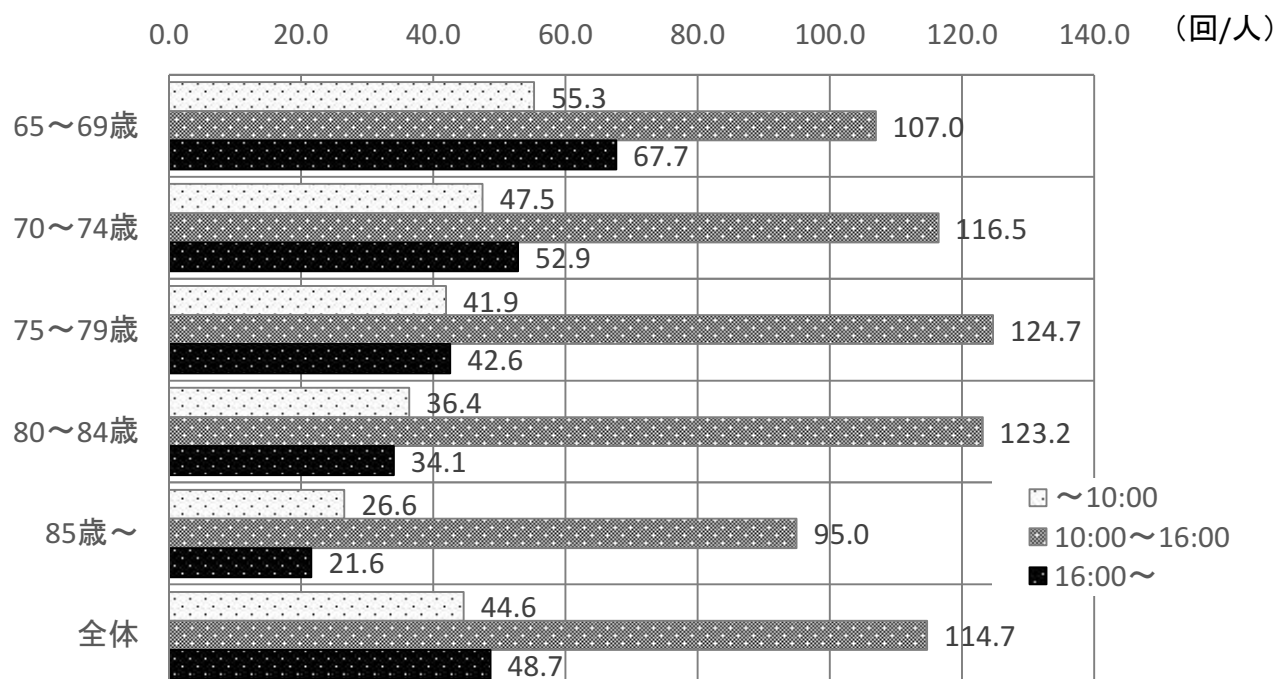
すべての年齢層で「10：00～16：00」の利用回数が最も多い。

79歳までは「16：00～」が次に多いが、80歳以上になると「～10：00」が多い。

図表 時間帯別利用回数【年齢区分別】（年間）

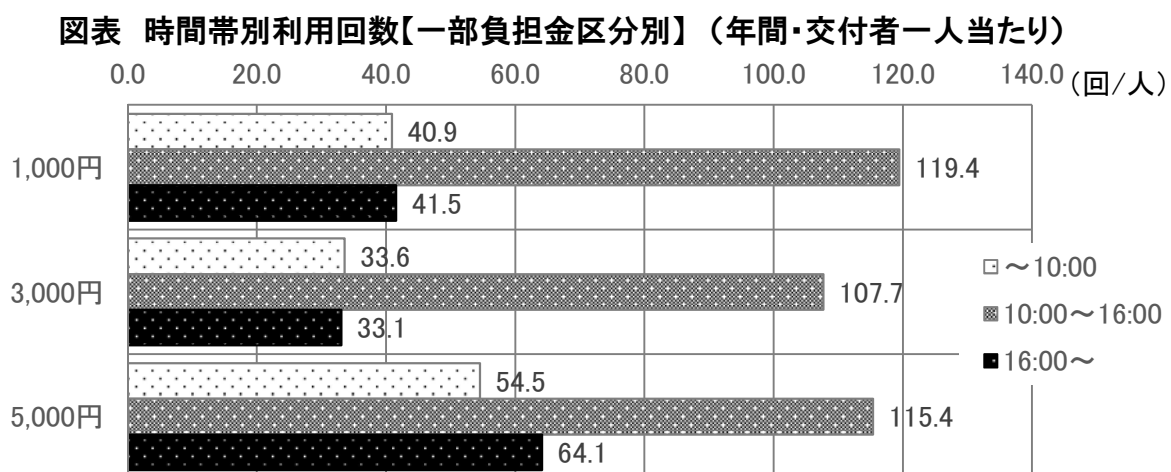
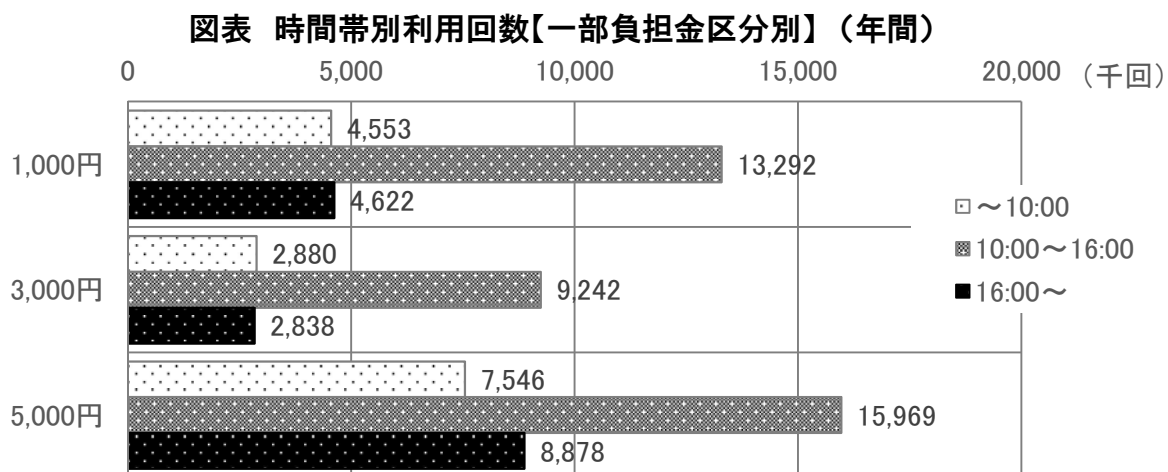


図表 時間帯別利用回数【年齢区分別】（年間・交付者一人当たり）



③ 一部負担金区分別

1,000円と3,000円は「～10:00」と「16:00～」がほぼ同じであるのに対し、5,000円は「16:00～」が「～10:00」よりも多い。

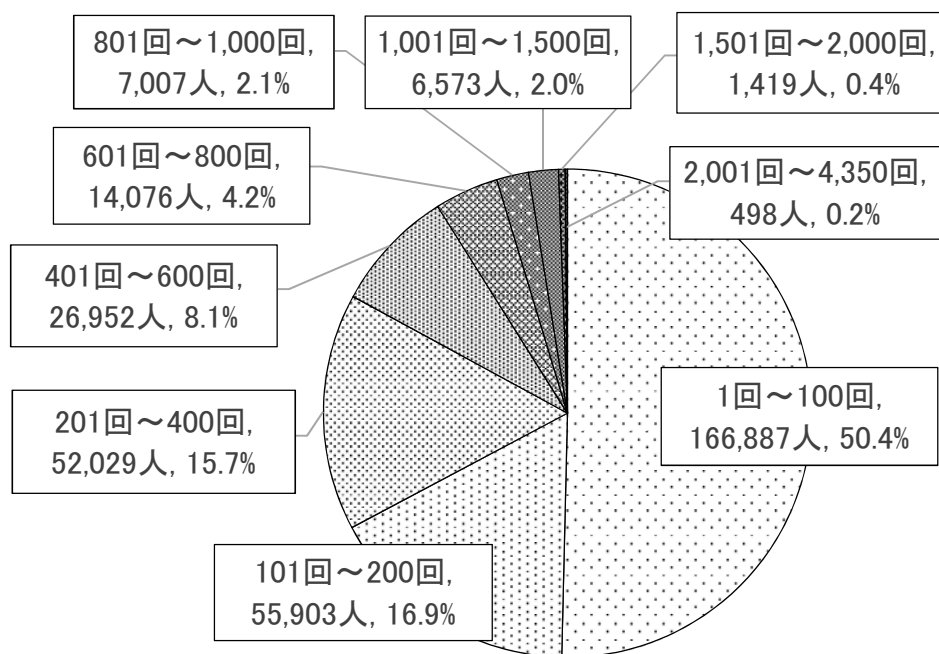


(5) 利用回数・利用金額の人数分布

① 利用回数(市バス・地下鉄合計)

一人当たりの年間の平均利用回数は 210.7 回であるが、100 回以下の人が約 5 割を占める一方で、2,000 回を超えて利用する人もいる。

図表 利用回数別の人数と割合【市バス・地下鉄合計】 (年間)



n = 331,344 人 (0 回利用者を含まない。)

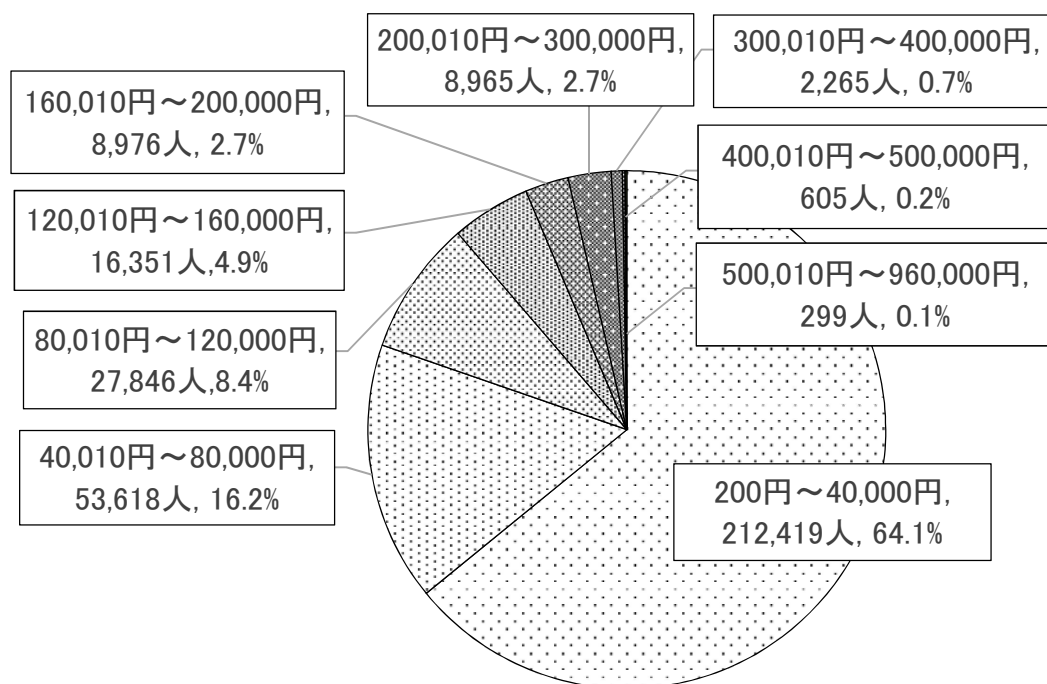
一人当たりの年間平均利用回数 210.7 回

年間利用回数	1週間当たり概ね換算	人数(人)	割合(%)
1回 ～ 100回	2回未満	166,887	50.4
101回 ～ 200回	2回 ～ 4回未満	55,903	16.9
201回 ～ 400回	4回 ～ 8回未満	52,029	15.7
401回 ～ 600回	8回 ～ 12回未満	26,952	8.1
601回 ～ 800回	12回 ～ 16回未満	14,076	4.2
801回 ～ 1,000回	16回 ～ 20回未満	7,007	2.1
1,001回 ～ 1,500回	20回 ～ 29回未満	6,573	2.0
1,501回 ～ 2,000回	29回 ～ 39回未満	1,419	0.4
2,001回 ～ 4,350回	39回 ～ 84回未満	498	0.2
計		331,344	100.0

② 利用金額(市バス・地下鉄合計)

一人当たりの年間の平均利用金額は 47,770 円であるが、4 万円以下の人が 6 割以上を占める一方で、50 万円を超えて利用する人もいる。

図表 利用金額別の人数と割合【市バス・地下鉄合計】(年間)



n = 331,344 人 (0 回利用者を含まない。)

一人当たりの年間平均利用金額 47,770 円

一回当たり平均利用金額 226.7 円

区分	人数(人)	割合(%)
200 円 ～ 40,000 円	212,419	64.1
40,010 円 ～ 80,000 円	53,618	16.2
80,010 円 ～ 120,000 円	27,846	8.4
120,010 円 ～ 160,000 円	16,351	4.9
160,010 円 ～ 200,000 円	8,976	2.7
200,010 円 ～ 300,000 円	8,965	2.7
300,010 円 ～ 400,000 円	2,265	0.7
400,010 円 ～ 500,000 円	605	0.2
500,010 円 ～ 960,000 円	299	0.1
計	331,344	100.0

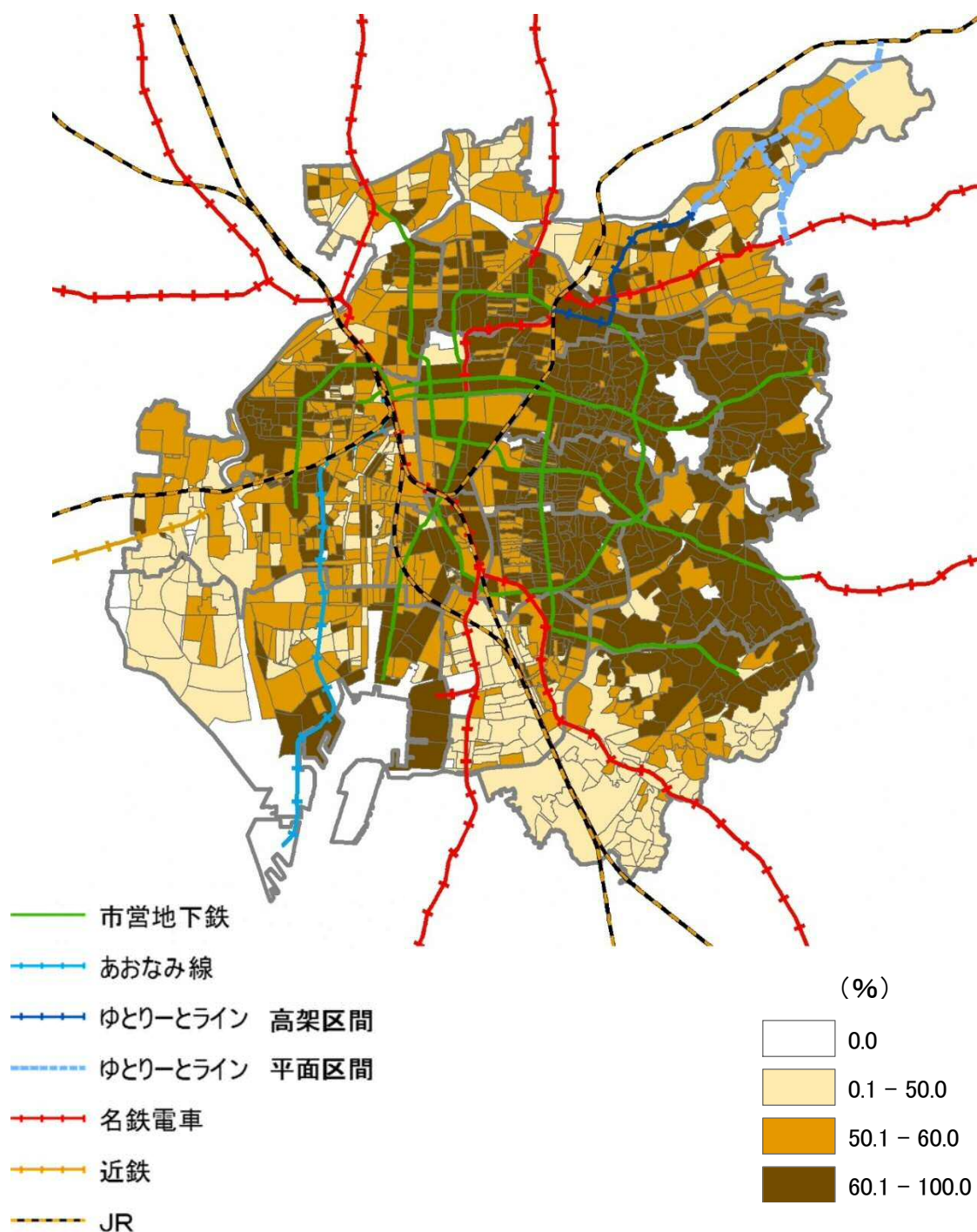
※「利用金額」は、利用回数に市バス及び地下鉄の各区間の単価(割引前)を乗じて算出している。

(6) 居住地域別(郵便番号別)の状況

① 交付率

居住地域別の交付率は、市の東部、特に地下鉄駅の沿線地域で高い。

図表 交付率(平成 29 年 3 月 31 日現在)

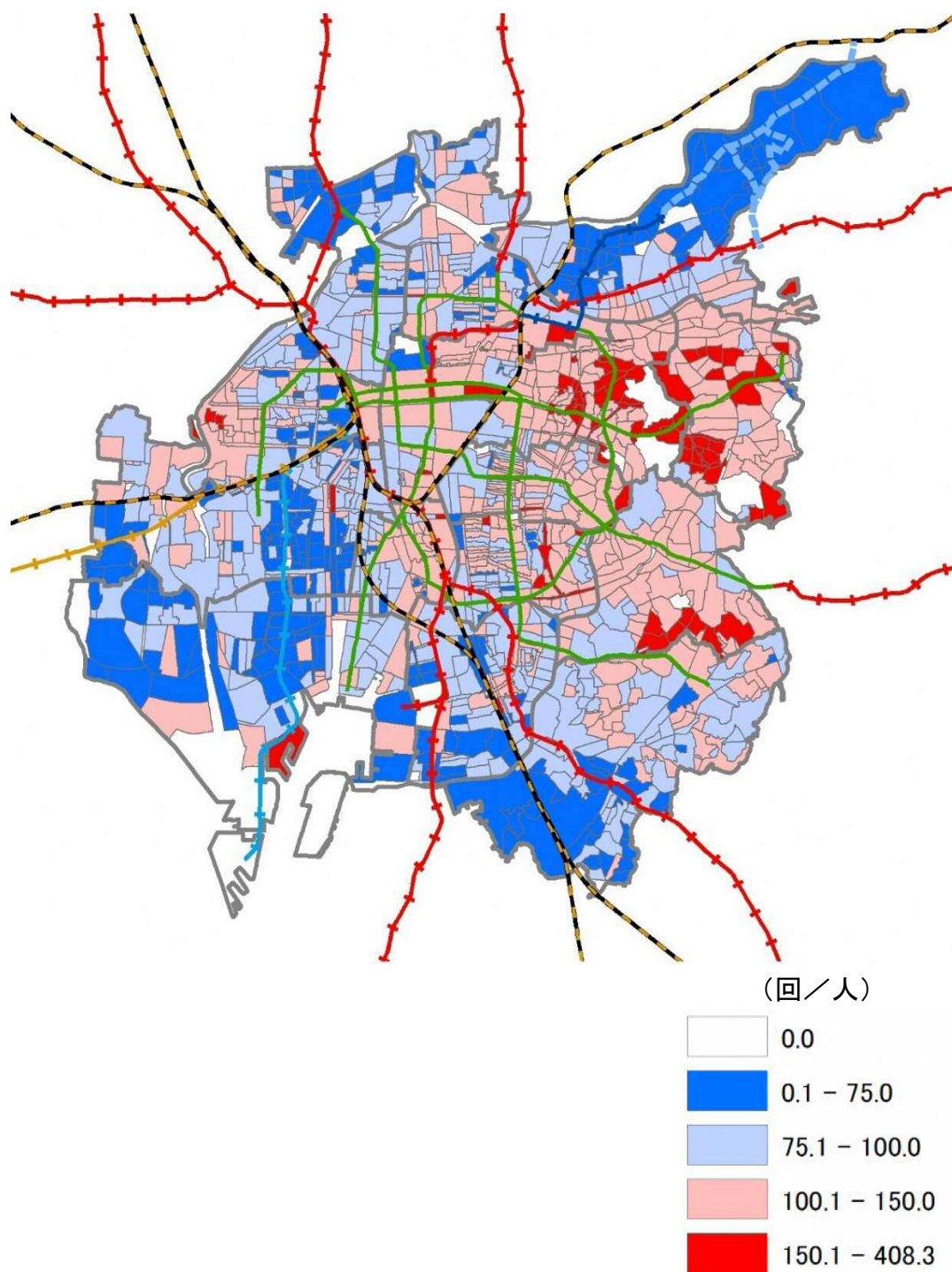


※平成 29 年 3 月 31 日現在 (交付者数合計 330,691 人、対象者数 556,565 人)

② 地下鉄駅及び市バスの利用回数の計

居住地域別の交付者一人当たりの市バス及び地下鉄の利用回数の計は、市の東部で多い。

図表 市バス及び地下鉄利用回数の計(6か月間・交付者一人当たり)

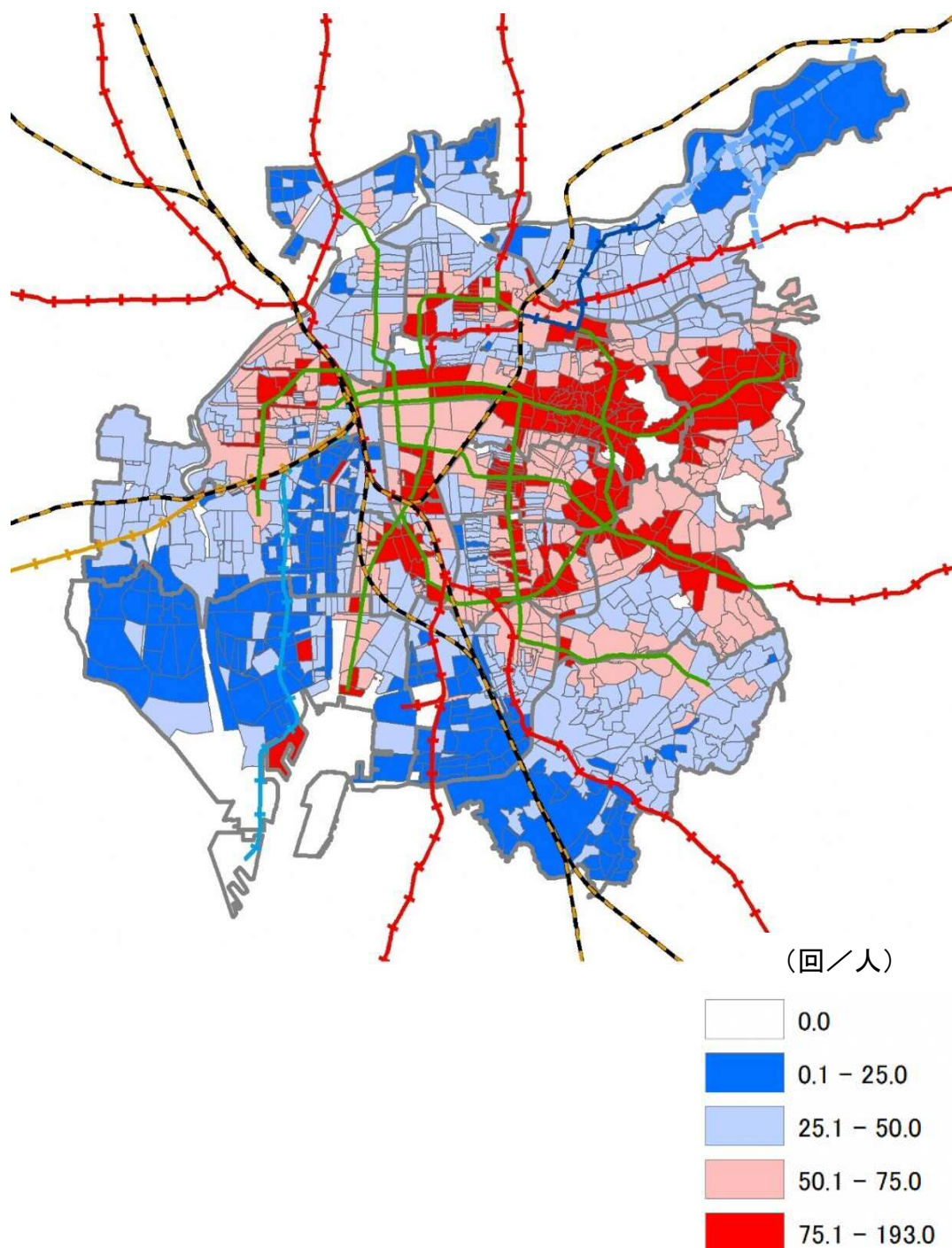


注：利用回数はゆとりーとライン（高架・平面区間）及びあおなみ線を含まない。

③ 地下鉄利用回数

交付者一人当たりの地下鉄利用回数は、地下鉄の沿線地域が多い。

図表 地下鉄利用回数(6か月間・交付者一人当たり)

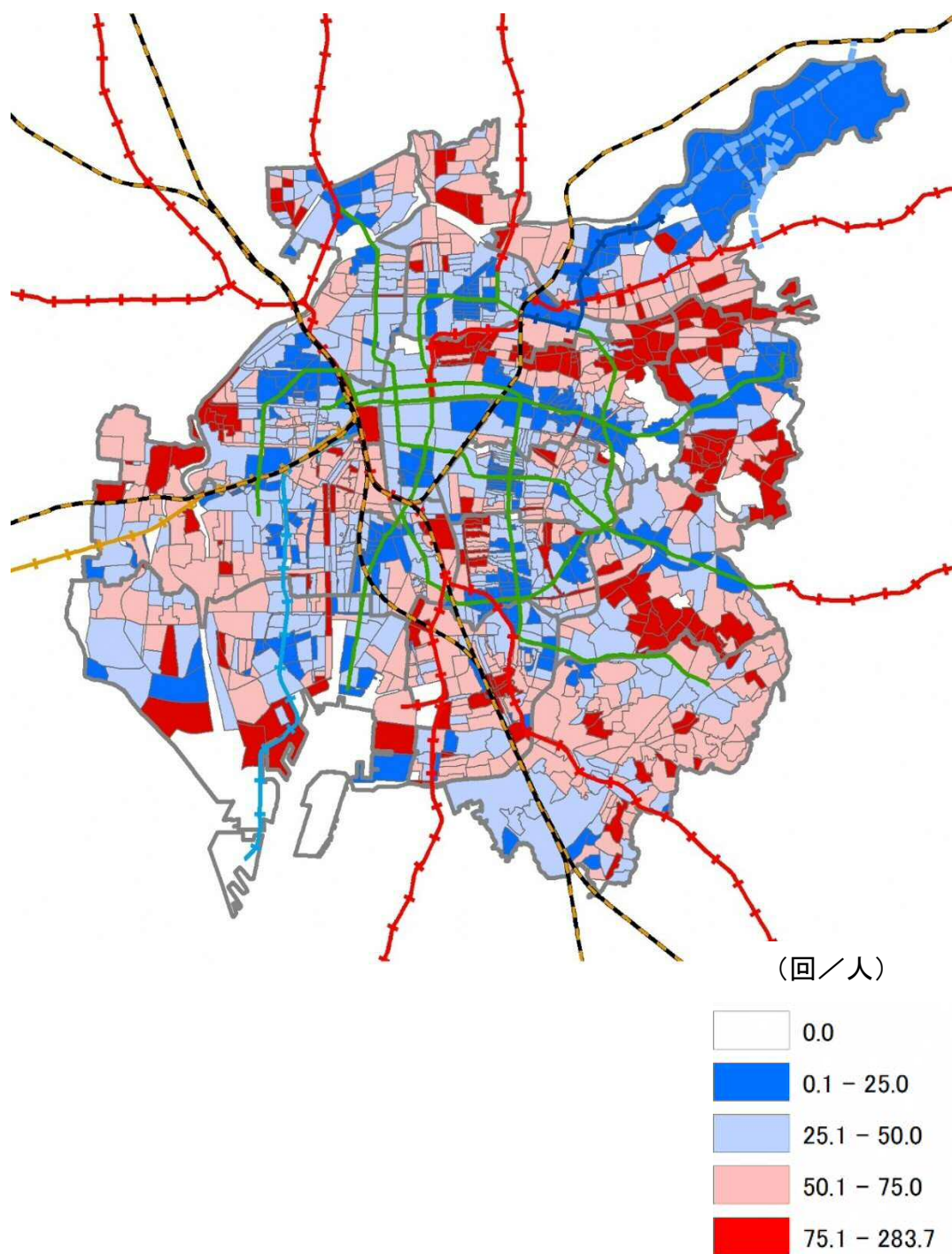


注：利用回数はゆとりーとライン（高架・平面区間）及びあおなみ線を含まない。

④ 市バス利用回数

交付者一人当たりの市バス利用回数は、地下鉄の沿線地域を除いた地域で多い。

図表 市バス利用回数(6か月間・交付者一人当たり)



注：利用回数はゆとりーとライン（高架・平面区間）を含まない。

ICカードの乗車実績データに基づく敬老パスの利用状況まとめ

(年齢区分別利用回数)

- ・ 交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は年齢が高くなると少なくなるが、市バスは80～84歳が最も多い。

(居住区別利用回数)

- ・ 交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は千種区、名東区の順で多く、市バスは名東区、天白区の順で多い。また、中川区や港区、南区等では、地下鉄よりも市バスの利用が多い。

(機関別及び区間別利用回数)

- ・ 市バスと地下鉄の利用回数はほぼ同等である。
- ・ 地下鉄の利用回数は「2区」が最も多く、次いで「1区」、「3区」が多い。

(曜日別及び時間帯別利用回数)

- ・ 土曜日と日曜日の利用回数は平日よりも少なく、日曜日が最も少ない。
- ・ 時間帯別では、「10:00～16:00」の利用回数が半数を超えて最も多い。

(利用回数・利用金額の人数分布)

- ・ 一人当たりの年間の平均利用回数は210.7回であるが、100回以下の人が約5割を占める一方で、2,000回を超えて利用する人もいる。
- ・ 一人当たりの年間の平均利用金額は47,770円であるが、4万円以下の人が6割以上を占める一方で、50万円を超えて利用する人もいる。

(居住地域別の状況)

- ・ 交付率は、市の東部、特に地下鉄駅の沿線地域で高い。また、交付者一人当たりの市バス及び地下鉄の利用回数の計は、市の東部で多い。
- ・ 交付者一人当たりの地下鉄利用回数は地下鉄の沿線地域で多く、交付者一人当たりの市バス利用回数は地下鉄の沿線地域を除いた地域で多い。